合格テキスト

よくわかる簿記シリーズ

TEXT

日商簿記3級

はしがき

企業における最近のコンピュータの利用状況には，目をみはるものがあります。とりわけ経理分野では，コンピュータを利用した合理化・効率化が飛躍的な進化をとげ，簿記の知識は不要とまでいわれるようになっています。しかし，コンピュータは計算・集計の道具であり，データをもとに分析し決定をするのは，やはり簿記の知識をもった人であることを忘れてはなりません。また，計数感覚はビジネスパーソンにとって最低限の基礎的知識といえますが，これも簿記を学習することにより習得することができます。

本書は，日本商工会議所主催簿記検定試験の受験対策用として刊行したものです。

この検定試験は，2021年４月より新試験出題区分で施行されていますが，本書は，この出題区分に対応したテキストです。本書は，ＴＡＣ簿記検定講座で使用中の教室講座，通信講座の教材を基に，長年蓄積してきたノウハウを集約したものであり，「合格する」ことを第一の目的において編集したものです。特に，読者の皆さんがこの一冊で教室と同じ学習効果を上げられるように，次のような工夫をしています。

1．学習内容を具体的に理解できるようイラストや図表を使って説明しています。
2．学習の論点を明確に把握できるよう「ここがPOINT」を設けてあります。
3．本書のテーマに完全準拠した問題集『合格トレーニング』を用意しました。
4．簿記についての関連知識や参考的な内容を，「Supplement」や「ちょっとひといき」にまとめました。

＊詳しくは「本書の使い方」をご覧ください。

本書を活用していただければ，読者の皆さんが検定試験に必ず合格できるだけの実力を身につけられるものと確信しています。また本書は，受験用としてばかりではなく，簿記を知識として学習したいと考えている学生，社会人の方にも最適と考えています。

現在，日本の企業は国際競争の真っ只中にあり，いずれの企業も実力のある人材，とりわけ簿記会計の知識を身につけた有用な人材を求めています。読者の皆さんが本書を活用することで，簿記の検定試験に合格し，将来の日本をになう人材として成長されることを心から願っています。

＊本書に掲載されています「ちょっとひといき」を書くにあたっては，『簿記の歴史』（上原孝吉著・一橋出版）を参考にさせていただきました。

2022年12月

ＴＡＣ簿記検定講座

Ver.14.0 への改訂について

本書は，『合格テキスト日商簿記３級』Ver.13.0 について，最近の出題傾向に基づく改訂を行うとともに，フルカラーにして刊行したものです。

合格テキスト
日商簿記3級

本書の使い方

本書は，日商簿記検定試験に合格することを最大の目的として編纂しました。本書は，ＴＡＣ簿記検定講座が教室講座の運営をとおして構築したノウハウの集大成です。

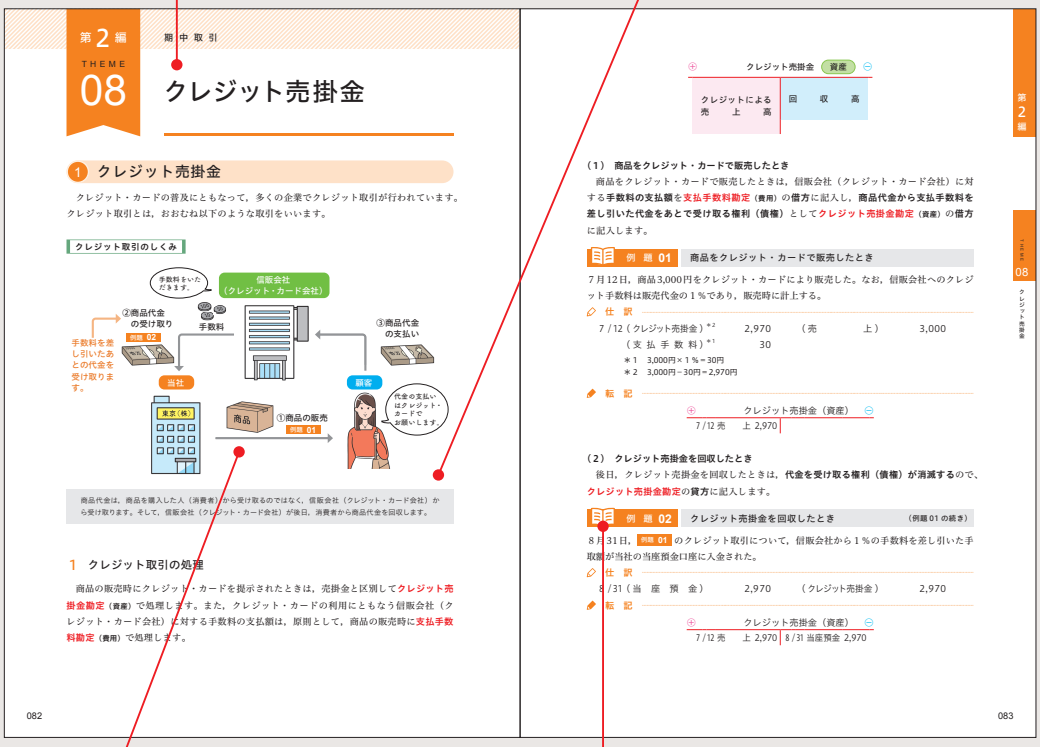
本書の特徴は次のような点であり，きっと満足のいただけるものと確信しています。

なお，より簿記の理解を高めるため，本書に沿って編集されている問題集『合格トレーニング』を同時に解かれることをおすすめします。

ＴＡＣ簿記検定講座スタッフ一同

論点を理解するために必要な内容をテーマごとにまとめましたので，無駄のない学習を行うことができます。

用語の解説や論点をかみくだいた説明など学習を補助するコメントを示しました。



第2編　期中取引

THEME 08

クレジット売掛金

1 クレジット売掛金

クレジット・カードの普及にともなって，多くの企業でクレジット取引が行われています。クレジット取引とは，おおむね以下のような取引をいいます。

クレジット取引のしくみ

手数料をいただきます。
信販会社（クレジット・カード会社）
②商品代金の受け取り
例題 02
手数料
③商品代金の支払い
手数料を差し引いたあとの代金を受け取ります。
当社
顧客
東京（株）
商品
①商品の販売
例題 01
代金の支払いはクレジット・カードでお願いします。

商品代金は，商品を購入した人（消費者）から受け取るのではなく，信販会社（クレジット・カード会社）から受け取ります。そして，信販会社（クレジット・カード会社）が後日，消費者から商品代金を回収します。

1 クレジット取引の処理

商品の販売時にクレジット・カードを提示されたときは，売掛金と区別して**クレジット売掛金勘定**（資産）で処理します。また，クレジット・カードの利用にともなう信販会社（クレジット・カード会社）に対する手数料の支払額は，原則として，商品の販売時に**支払手数料勘定**（費用）で処理します。

082

クレジット売掛金　資産

クレジットによる売上高	回収高

第2編　THEME 08　クレジット売掛金

（1） 商品をクレジット・カードで販売したとき

商品をクレジット・カードで販売したときは，信販会社（クレジット・カード会社）に対する**手数料の支払額**を**支払手数料勘定**（費用）の**借方**に記入し，**商品代金から支払手数料を差し引いた代金をあとで受け取る権利（債権）**として**クレジット売掛金勘定**（資産）の**借方**に記入します。

例題 01　商品をクレジット・カードで販売したとき

7月12日，商品3,000円をクレジット・カードにより販売した。なお，信販会社へのクレジット手数料は販売代金の1％であり，販売時に計上する。

仕訳

7/12（クレジット売掛金）*2　2,970　（売上）　3,000
（支払手数料）*1　30

＊1　3,000円×1％＝30円
＊2　3,000円－30円＝2,970円

転記

クレジット売掛金（資産）
7/12 売上 2,970

（2） クレジット売掛金を回収したとき

後日，クレジット売掛金を回収したときは，**代金を受け取る権利（債権）が消滅する**ので，**クレジット売掛金勘定**の**貸方**に記入します。

例題 02　クレジット売掛金を回収したとき　（例題01の続き）

8月31日，例題01のクレジット取引について，信販会社から1％の手数料を差し引いた手取額が当社の当座預金口座に入金された。

仕訳

8/31（当座預金）　2,970　（クレジット売掛金）　2,970

転記

クレジット売掛金（資産）
7/12 売上 2,970 | 8/31 当座預金 2,970

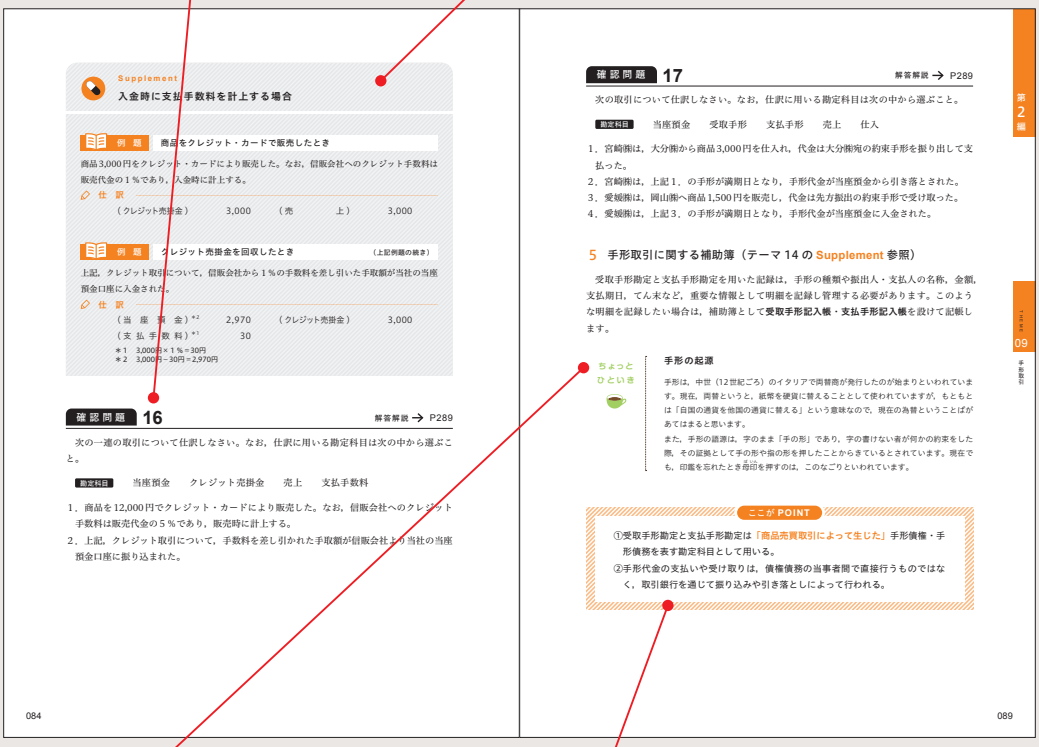
083

適宜にイラストやチャート図を示してありますので，ひとめでその内容をイメージすることができます。

各論点には「例題」を示してありますので，これに従って学習を進めることで，無理なく内容を理解することができます。

論点のおわりには「確認問題」を設けていますので，その論点で学習した内容を理解できたかチェックすることができます。

より理解を高めるために「Supplement」として，補足的あるいは発展的な内容を別枠で示してあります。



Supplement
入金時に支払手数料を計上する場合

例題　商品をクレジット・カードで販売したとき

商品3,000円をクレジット・カードにより販売した。なお，信販会社へのクレジット手数料は販売代金の1％であり，入金時に計上する。

仕訳

（クレジット売掛金）	3,000	（売上）	3,000

例題　クレジット売掛金を回収したとき　（上記例題の続き）

上記，クレジット取引について，信販会社から1％の手数料を差し引いた手取額が当社の当座預金口座に入金された。

仕訳

（当座預金）*2	2,970	（クレジット売掛金）	3,000
（支払手数料）*1	30		

＊1　3,000円×1％＝30円
＊2　3,000円－30円＝2,970円

確認問題 16　解答解説 → P289

次の一連の取引について仕訳しなさい。なお，仕訳に用いる勘定科目は次の中から選ぶこと。

勘定科目　当座預金　クレジット売掛金　売上　支払手数料

1．商品を12,000円でクレジット・カードにより販売した。なお，信販会社へのクレジット手数料は販売代金の5％であり，販売時に計上する。
2．上記，クレジット取引について，手数料を差し引かれた手取額が信販会社より当社の当座預金口座に振り込まれた。

084

確認問題 17　解答解説 → P289

次の取引について仕訳しなさい。なお，仕訳に用いる勘定科目は次の中から選ぶこと。

勘定科目　当座預金　受取手形　支払手形　売上　仕入

1．宮崎㈱は，大分㈱から商品3,000円を仕入れ，代金は大分㈱宛の約束手形を振り出して支払った。
2．宮崎㈱は，上記1．の手形が満期日となり，手形代金が当座預金から引き落とされた。
3．愛媛㈱は，岡山㈱へ商品1,500円を販売し，代金は先方振出の約束手形で受け取った。
4．愛媛㈱は，上記3．の手形が満期日となり，手形代金が当座預金に入金された。

5　手形取引に関する補助簿（テーマ14のSupplement参照）

受取手形勘定と支払手形勘定を用いた記録は，手形の種類や振出人・支払人の名称，金額，支払期日，てん末など，重要な情報として明細を記録し管理する必要があります。このような明細を記録したい場合は，補助簿として**受取手形記入帳・支払手形記入帳**を設けて記帳します。

ちょっとひといき

手形の起源

手形は，中世（12世紀ごろ）のイタリアで両替商が発行したのが始まりといわれています。現在，両替というと，紙幣を硬貨に替えることとして使われていますが，もともとは「自国の通貨を他国の通貨に替える」という意味なので，現在の為替ということばがあてはまると思います。
また，手形の語源は，字のまま「手の形」であり，字の書けない者が何かの約束をした際，その証拠として手の形や指の形を押したことからきているとされています。現在でも，印鑑を忘れたとき母印を押すのは，このなごりといわれています。

ここがPOINT

①受取手形勘定と支払手形勘定は「商品売買取引によって生じた」手形債権・手形債務を表す勘定科目として用いる。
②手形代金の支払いや受け取りは，債権債務の当事者間で直接行うものではなく，取引銀行を通じて振り込みや引き落としによって行われる。

第2編　09　手形取引

089

簿記の歴史や関連知識を「ちょっとひといき」として掲載してありますので，ちょっとひといきついて気分転換しましょう。

論点のおわりに「ここがPOINT」を示してありますので，要領よく学習内容を理解することができます。

合格までのプロセス

本書は，合格することを第一の目的として編集しておりますが，学習にあたっては次の点に注意してください。

1 段階的な学習を意識する

学習方法には個人差がありますが，検定試験における「合格までのプロセス」は，次の３段階に分けることができます。各段階の学習を確実に進めて，合格を勝ち取りましょう。

学習プロセス		学習プロセス		学習プロセス	
論点学習	→	パターン学習	→	直前対策	→
学習方法		**学習方法**		**学習方法**	
『合格テキスト』に従って個別論点を学習し，さらにアウトプットとして**『合格トレーニング』**を解きながら基礎知識を確認します。		実践形式に慣れるために本試験タイプの問題を解きます。姉妹品**『合格するための本試験問題集』**をご利用ください。		本試験対策として予想問題を解きます。姉妹品**『TAC予想模試』**をご利用ください。	
注意すべきこと		**注意すべきこと**		**注意すべきこと**	
一つ一つの論点について，理解することが重要です。時間がなくても『合格テキスト』に収録されている**「確認問題」**は必ず解きましょう。		５～10回分の本試験タイプの問題を解くようにしましょう。間違えてもよいので，必ず解きましょう。		制限時間内に解くようにしましょう。同時に一度解いた問題を解くと効果的です。	

→ 合格

学習サポートについて

ＴＡＣ簿記検定講座では，皆さんの学習をサポートするために受験相談窓口を開設しております。ご相談は文書にて承ります。住所，氏名，電話番号を明記の上，返信用切手84円を同封し下記の住所までお送りください。なお，返信までは７～10日前後必要となりますので，予めご了承ください。

(注)受験相談窓口につき書籍に関するご質問はご容赦ください。

〒101-8383
東京都千代田区神田三崎町
３－２－18
資格の学校TAC
簿記検定講座講師室
「受験相談係」宛

② 簿記は「習うより慣れろ」

簿記は問題を解くことで理解が深まりますので，読むだけでなく実際にペンを握ってより多くの問題を解くようにしましょう。

論点学習 → 「確認問題」を解く → 『合格トレーニング』の問題を解く → 次の論点学習

② 学習計画を立てる

検定試験を受験するにあたり，学習計画は事前に立てておく必要があります。日々の積み重ねが合格への近道です。学習日程を作り，一夜漬けにならないように気をつけましょう（「論点学習計画表」は（10）ページに掲載していますので，ご利用ください）。

学習テーマ		計　画	実　施
テーマ01	簿記の意義	月　日	月　日
テーマ02	財務諸表と簿記の５要素	月　日	月　日
テーマ03	日常の手続き	月　日	月　日
テーマ04	商品売買Ⅰ	月　日	月　日
テーマ05	商品売買Ⅱ	月　日	月　日
テーマ06	現金・預金	月　日	月　日
テーマ07	小口現金	月　日	月　日
テーマ08	クレジット売掛金	月　日	月　日
		月　日	

個人情報の取扱いにつきまして

1. **個人情報取扱事業者の名称**
TAC 株式会社
代表取締役　多田　敏男
2. **個人情報保護管理者**
個人情報保護管理室　室長
連絡先　privacy@tac-school.co.jp
3. **管理**
学習サポートに伴いご提供頂きました個人情報は、安全かつ厳密に管理いたします。
4. **利用目的**
お預かりいたしました個人情報は、学習サポートに関して利用します。ただし、取得した閲覧履歴や購買履歴等の情報は、サービスの研究開発等に利用及び興味・関心に応じた広告やサービスの提供にも利用する場合がございます。
5. **安全対策の措置について**
お預かりいたしました個人情報は、正確性及びその利用の安全性の確保のため、情報セキュリティ対策を始めとする必要な安全措置を講じます。
6. **第三者提供について**
お預かりいたしました個人情報は、お客様の同意なしに業務委託先以外の第三者に開示、提供することはありません。（ただし、法令等により開示を求められた場合を除く。）
7. **個人情報の取扱いの委託について**
お預かりいたしました個人情報を業務委託する場合があります。
8. **情報の開示等について**
ご提供いただいた個人情報の利用目的の通知、開示、訂正、削除、利用又は提供の停止等を請求することができます。請求される場合は、当社所定の書類及びご本人確認書類のご提出をお願いいたします。詳しくは、下記の窓口までご相談ください。
9. **個人情報提供の任意性について**
当社への個人情報の提供は任意です。ただし、サービスに必要な個人情報がご提供いただけない場合等は、円滑なサービスのご提供に支障をきたす可能性があります。あらかじめご了承ください。
10. **その他**
個人情報のお取扱いの詳細は、TAC ホームページをご参照ください。
https://www.tac-school.co.jp
11. **個人情報に関する問合せ窓口**
TAC 株式会社　個人情報保護管理室
住所：東京都千代田区神田三崎町 3-2-18
E メール：privacy@tac-school.co.jp

効率的な学習方法

これから学習を始めるにあたり，試験の出題傾向にあわせた効率的な学習方法（得点など）について見ていくことにしましょう。

1 配点基準

試験は，次のような配点で出題されています。

〈第1問〉	〈第2問〉	〈第3問〉
45点	20点	35点

合計100点

このうち70点を得点することで合格となりますが，配点からみると，第1問，第3問の得点だけで80点となりますので，重要な問題であることがわかります。

2 出題傾向と対策

ここでは各問ごとの出題傾向と対策について見ることにしましょう。本来，苦手な問題はなくすのが一番よいことですが，配点を見て取捨選択するのも一つの方法です。

第1問対策

ここでは仕訳形式の問題が15題出題され，各3点の配点となります。すべての内容を理解し，スピード感をもって解答できるようにしておくことが必要です。

なお，検定試験では使用できる勘定科目が指定されますので，これを一つのヒントとして解答するとよいでしょう。

第2問対策

ここでは帳簿（補助簿）や勘定記入について出題されます。帳簿にはいくつか種類がありますが，最低でも「どのようなときに，どの補助簿が用いられるか」を理解しておく必要があります。また，勘定記入では複数の会計処理があるものや，決算仕訳が関係するものが出題されます。

また，三伝票や決算関係の仕訳・勘定記入の問題，文章の穴埋め問題など，全範囲からさまざまな形式で出題されます。

第3問対策

ここでは財務諸表・決算整理後残高試算表・精算表を作成する問題が出題されます。決算全体の処理について理解が必要です。第1問と同様に第3問も合否のカギを握っているといえます。

試験概要

現在，実施されている簿記検定試験の中で最も規模が大きく，また歴史も古い検定試験が，日本商工会議所が主催する簿記検定試験です（略して日商検定という）。

日商検定は知名度も高く企業の人事労務担当者にも広く知れ渡っている資格の一つです。一般に履歴書に書ける資格といわれているのは同検定３級からですが，社会的な要請からも今は２級合格が一つの目安になっています。なお，同検定１級合格者には税理士試験の税法の受験資格を付与するという特典があり，職業会計人の登竜門となっています。

級別	科目	制限時間	程度
１級	商業簿記 会計学 工業簿記 原価計算	〈商・会〉 90分 〈工・原〉 90分	極めて高度な商業簿記・会計学・工業簿記・原価計算を修得し，会計基準や会社法，財務諸表等規則などの企業会計に関する法規を踏まえて，経営管理や経営分析を行うために求められるレベル。
２級	商業簿記 工業簿記	90分	高度な商業簿記・工業簿記（原価計算を含む）を修得し，財務諸表の数字から経営内容を把握できるなど，企業活動や会計実務を踏まえ適切な処理や分析を行うために求められるレベル。
３級	商業簿記	60分	基本的な商業簿記を修得し，小規模企業における企業活動や会計実務を踏まえ，経理関連書類の適切な処理を行うために求められるレベル。
初級	商業簿記	40分	簿記の基本用語や複式簿記の仕組みを理解し，業務に利活用することができる。（試験方式：ネット試験）
原価計算初級	原価計算	40分	原価計算の基本用語や原価と利益の関係を分析・理解し，業務に利活用することができる。（試験方式：ネット試験）

各級とも100点満点のうち70点以上を得点すれば合格となります。ただし，１級については各科目25点満点のうち，１科目の得点が10点未満であるときは，たとえ合計が70点以上であっても不合格となります。

主催団体	日本商工会議所，各地商工会議所	
受験資格	特に制限なし	
試験日	統一試験	年３回　６月（第２日曜日）／11月（第３日曜日）／２月（第４日曜日）
	ネット試験	随時（テストセンターが定める日時。）ただし，統一試験前後10日間は休止。
試験級	１級・２級・３級・初級・原価計算初級	
申込方法	統一試験	試験の約２か月前から開始。申込期間は，各商工会議所によって異なります。
	ネット試験	テストセンターの申込サイトより随時。
受験料（税込）	１級　￥7,850　２級　￥4,720　３級　￥2,850　初級・原価計算初級　￥2,200 ※一部の商工会議所およびネット試験では事務手数料がかかります。	
問い合せ先	最寄りの各地商工会議所にお問い合わせください。 検定試験ホームページ：https://www.kentei.ne.jp/	

※刊行時のデータです。最新の情報は検定試験ホームページをご確認ください。

論点学習計画表

学習テーマ		計　画	実　施
テーマ01	簿記の意義	月　日	月　日
テーマ02	財務諸表と簿記の５要素	月　日	月　日
テーマ03	日常の手続き	月　日	月　日
テーマ04	商品売買Ⅰ	月　日	月　日
テーマ05	商品売買Ⅱ	月　日	月　日
テーマ06	現金・預金	月　日	月　日
テーマ07	小口現金	月　日	月　日
テーマ08	クレジット売掛金	月　日	月　日
テーマ09	手形取引	月　日	月　日
テーマ10	電子記録債権・債務	月　日	月　日
テーマ11	その他の取引Ⅰ	月　日	月　日
テーマ12	その他の取引Ⅱ	月　日	月　日
テーマ13	その他の取引Ⅲ	月　日	月　日
テーマ14	さまざまな帳簿の関係	月　日	月　日
テーマ15	試算表	月　日	月　日
テーマ16	決　算	月　日	月　日
テーマ17	決算整理Ⅰ　現金過不足	月　日	月　日
テーマ18	決算整理Ⅱ　売上原価	月　日	月　日
テーマ19	決算整理Ⅲ　貸倒れ	月　日	月　日
テーマ20	決算整理Ⅳ　減価償却	月　日	月　日
テーマ21	決算整理Ⅴ　貯蔵品	月　日	月　日
テーマ22	決算整理Ⅵ　当座借越	月　日	月　日
テーマ23	決算整理Ⅶ　経過勘定項目	月　日	月　日
テーマ24	決算整理後残高試算表	月　日	月　日
テーマ25	精算表	月　日	月　日
テーマ26	帳簿の締め切り（英米式決算）	月　日	月　日
テーマ27	損益計算書と貸借対照表	月　日	月　日
テーマ28	株式の発行	月　日	月　日
テーマ29	剰余金の配当と処分	月　日	月　日
テーマ30	税　金	月　日	月　日
テーマ31	証ひょう	月　日	月　日
テーマ32	伝　票	月　日	月　日

合格テキスト
日商簿記3級

CONTENTS

はしがき（3）
本書の使い方（4）
合格までのプロセス（6）
効率的な学習方法（8）
試験概要（9）
論点学習計画表（10）

第1編　簿記の基礎

テーマ01　簿記の意義

❶ 簿記とは …… 002
❷ 簿記の目的 …… 002
❸ 簿記の種類 …… 003
❹ 簿記の前提条件 …… 004

テーマ02　財務諸表と簿記の5要素

❶ 貸借対照表（B/S） …… 006
❷ 損益計算書（P/L） …… 007
❸ 簿記の5要素 …… 008

テーマ03　日常の手続き

❶ 記帳のルール …… 010
❷ 仕訳と転記 …… 014
❸ 記帳手続（日常の手続き～帳簿への記録～） …… 020
❹ 合計・残高 …… 022
❺ 試算表の作成 …… 023
❻ 日常の手続きのまとめ …… 025
❼ 簿記一巡の手続き …… 032
❽ これからの簿記学習について …… 033

第2編　期中取引

テーマ04　商品売買Ⅰ

❶ 商品売買取引 …… 034
❷ 三分法 …… 035
❸ 掛けによる売買 …… 037
❹ 手付金や内金の処理 …… 041
❺ 商品券 …… 045

テーマ05　商品売買Ⅱ

❶ 返　品 …… 048
❷ 商品の移動にかかる費用 …… 051
❸ 保管費 …… 053
❹ 売掛金元帳・買掛金元帳 …… 054
❺ 商品有高帳 …… 058

テーマ06　現金・預金

❶ 現　金 …… 064
❷ 当座預金 …… 066
❸ 当座借越契約 …… 070
❹ 普通預金と定期預金 …… 071
❺ 複数の銀行口座を所有する場合 …… 073

テーマ07　小口現金

❶ 小口現金制度 …… 076

テーマ08　クレジット売掛金

❶ クレジット売掛金 …… 082

テーマ09　手形取引

❶ 約束手形 …… 086

テーマ10　電子記録債権・債務

❶ 電子記録債権・債務 …… 090

テーマ11　その他の取引Ⅰ

❶ 貸付金・借入金 …… 094
❷ 利息について …… 098
❸ 役員貸付金・役員借入金 …… 101
❹ 手形貸付金・手形借入金 …… 103

テーマ12　その他の取引Ⅱ

❶ 有形固定資産の取得・売却・賃借 …… 106
❷ 未収入金・未払金 …… 111
❸ 修繕と改良 …… 114

テーマ13　その他の取引Ⅲ

❶ 仮払金・仮受金 …… 116
❷ 給　与 …… 120
❸ 諸会費 …… 127

テーマ14　さまざまな帳簿の関係

❶ さまざまな帳簿の関係 …… 128

テーマ15　試算表

❶ 試算表とは …… 138

第3編　決　算

テーマ16　決　算

❶ 決算とは …… 146
❷ 決算整理 …… 148
❸ 決算整理後残高試算表 …… 148
❹ 精算表 …… 148
❺ 帳簿（勘定）の締め切り …… 148
❻ 財務諸表の作成 …… 151

テーマ17　決算整理Ⅰ　現金過不足

❶ 現金過不足の処理（期中取引） …… 154
❷ 現金過不足の整理（決算整理） …… 157
❸ 決算日の現金実査にもとづく現金過不足の処理（決算整理） …… 160

テーマ18　決算整理Ⅱ　売上原価

❶ 三分法の記帳 …… 162
❷ 売上原価および売上総利益の計算 …… 162
❸ 売上原価を算定するための仕訳（決算整理） …… 164

テーマ19　決算整理Ⅲ　貸倒れ

❶ 貸倒れとは …… 168

❷ 貸倒れの処理（期中取引）…… 168
❸ 貸倒れの見積り（決算整理）…… 169
❹ 貸倒引当金残高がある場合の貸倒れ：
貸倒れ金額≦貸倒引当金残高（期中取引）…… 170
❺ 貸倒れの見積り－差額補充法－（決算整理）…… 171
❻ 貸倒引当金残高がある場合の貸倒れ：
貸倒れ金額＞貸倒引当金残高（期中取引）…… 173
❼ 当期に販売した分の売掛金が貸し倒れた場合（期中取引）…… 173
❽ 前期以前に貸倒れ処理した債権の回収（期中取引）…… 174

テーマ20　決算整理Ⅳ　減価償却

❶ 有形固定資産の減価償却（決算整理）…… 176
❷ 減価償却している有形固定資産の売却（期中取引）…… 181
❸ 減価償却費の月次計上 …… 185
❹ 固定資産台帳 …… 186

テーマ21　決算整理Ⅴ　貯蔵品

❶ 租税公課（期中取引）…… 188
❷ 貯蔵品（決算整理・再振替仕訳）…… 190

テーマ22　決算整理Ⅵ　当座借越

❶ 当座借越（決算整理・再振替仕訳）…… 192

テーマ23　決算整理Ⅶ　経過勘定項目

❶ 費用および収益の記録 …… 194
❷ 費用の前払い …… 196
❸ 収益の前受け …… 200
❹ 費用の未払い …… 204
❺ 収益の未収 …… 208
❻ 決算整理（まとめ）…… 212

テーマ24　決算整理後残高試算表

❶ 決算整理後残高試算表 …… 216

テーマ25　精算表

❶ 精算表 …… 220

テーマ26　帳簿の締め切り（英米式決算）

❶ 帳簿（勘定）の締め切り …… 230

テーマ27　損益計算書と貸借対照表

❶ 財務諸表の作成 …… 242
❷ 簿記一巡の手続き …… 245

第4編　株式会社会計

テーマ28　株式の発行

❶ 株式会社とは …… 248
❷ 資本（純資産）とは …… 250
❸ 株式の発行 …… 252

テーマ29　剰余金の配当と処分

❶ 利益剰余金の配当と処分とは …… 254
❷ 会計処理 …… 255
❸ 当期純損失を計上した場合 …… 258

テーマ30　税　金

❶ 税金の分類 …… 260
❷ 法人税，住民税及び事業税（法人税等） …… 260
❸ 消費税 …… 263

第5編　証ひょうと伝票

テーマ31　証ひょう

❶ 証ひょうとは …… 266
❷ 証ひょうの種類 …… 267

テーマ32　伝　票

❶ 伝票とは …… 274
❷ 三伝票制 …… 275
❸ 一部現金取引 …… 278

確認問題　解答・解説 …… 285
付　録 …… 303
さくいん …… 306

THEME 01

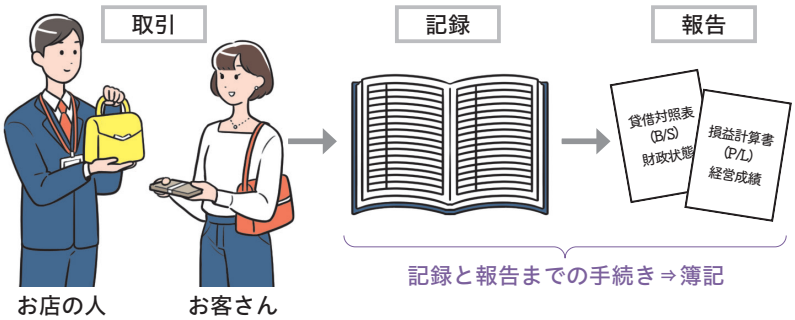
簿記の意義

1 簿記とは

簿記の語源は「帳簿記入」の略で，日々の取引を帳簿と呼ばれるノートに記入して記録することが簿記です。

現在，簿記といえば帳簿に記入して記録するだけでなく「**報告すること**」までの一連の手続きをいいます。ここで報告するために作成される報告書のことを財務諸表といいます。

《 簿記とは，取引を，帳簿に記録し，報告すること 》



2 簿記の目的

簿記では，以下に示す２つの目的を達成するために，さまざまなルールに従って帳簿記録や資料作成などを行います。

1 財政状態を明らかにすること（貸借対照表の作成）

財政状態とは，企業に「現在（**一定時点**において），何がいくらあるのか」を表すものです。

企業は利害関係者★に対して財政状態を明らかにするために**貸借対照表**（**Balance Sheet：B/S**）という報告書を作成します。

貸借対照表には現金や預金の残高，所有する建物の価値，借金がどれくらいあるかなどを記載します。

★利害関係者
利害関係者とは，企業をとりまくすべての人をいいます。
内部の利害関係者…株主，経営者，従業員など
外部の利害関係者…税務署，銀行など

2 経営成績を明らかにすること（損益計算書の作成）

経営成績とは，企業が「**一定期間**に，どんな活動をし，その結果いくらもうかったのか，または損したのか」を表すものです。

企業は利害関係者に対して経営成績を明らかにするために**損益計算書**（**Profit and Loss Statement：P/L**）という報告書を作成します。

損益計算書には，企業活動による収入や支出の内容などを記載します。

3 簿記の種類

簿記には，商品売買業★などで用いられる「商業簿記」，製造業★などで用いられる「工業簿記」などがありますが，このテキストでは「**小規模な株式会社が営む商品売買業**」を前提とする「**商業簿記**」を学習します。

★商品売買業と製造業
商品売買業とは，商品を仕入れて，販売する業種のことをいいます。
製造業とは，材料を仕入れて，加工し，製造した製品を販売する業種のことをいいます。

4 簿記の前提条件

簿記の前提条件として，**会計単位・会計期間・貨幣金額表示**の３つがあります。

1 会計単位

簿記で記録・計算・整理する対象となる範囲を**会計単位**といいます。企業の簿記の会計単位は，一つひとつの企業であり，その**企業が行った取引**を簿記の対象とします。

2 会計期間

企業は継続して活動を行うため，通常１年ごとに区切りをつけて，報告書を作成し，財政状態や経営成績を報告します。この定期的に区切られた期間を**会計期間**（かいけいきかん）といいます。

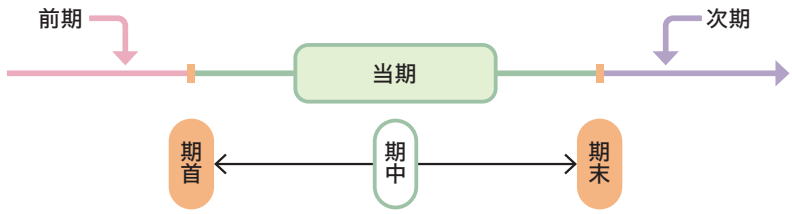
会計期間の始まりを**期首**（きしゅ），終わりを**期末**（きまつ），期首と期末の間を**期中**（きちゅう）といいます。

また，現在の会計期間を**当期**（とうき），１つ前の会計期間を**前期**（ぜんき），１つあとの会計期間を**次期**（じき）または**翌期**（よくき）といいます。

株式会社は，任意に期間を定めることができますが，４月１日から翌年の３月31日までを会計期間とする場合が大半です。なお，個人企業は暦に従って１月１日から12月31日までを会計期間とします。

> たとえば，企業は損益計算書を作成して，いくらもうかったか（経営成績）を報告しますが，期間を区切らなければ，いくらもうかったのかを把握することができません。そこで，会計期間を設定し，期間を区切ります。

会計期間

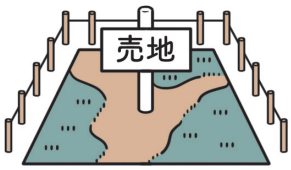


3 貨幣金額表示

簿記で記録するものは，すべて**貨幣（金額）**で表示できるものでなければならないという前提があります。

たとえば，社内の雰囲気や経営者の手腕など，貨幣（金額）で表すことができないものは簿記の記録対象にはなりません。

簿記の記録対象になる？



1億円…なる

経営者の手腕…ならない

確認問題 01

解答解説 → P286

次の空欄①～④に当てはまる適切な語句を下記の 語群 から選んで記入しなさい。

語群　貸借対照表　損益計算書　会計期間　利害関係者

1．簿記の目的は，財政状態と経営成績を明らかにすることですが，財政状態を明らかにする報告書として（　①　）を，経営成績を明らかにする報告書として（　②　）を作成します。
2．簿記は，企業の経営者はもちろんのこと，外部の（　③　）に対しても有用な情報を提供するという，重要な役割を果たす手続きです。
3．企業は継続して活動を行うため，（　④　）を定めて報告書を作成し，財政状態や経営成績を報告します。

①（　　）②（　　）③（　　）④（　　）

ここがPOINT

簿記とは，「取引を，帳簿に記録し，報告すること」をいう。

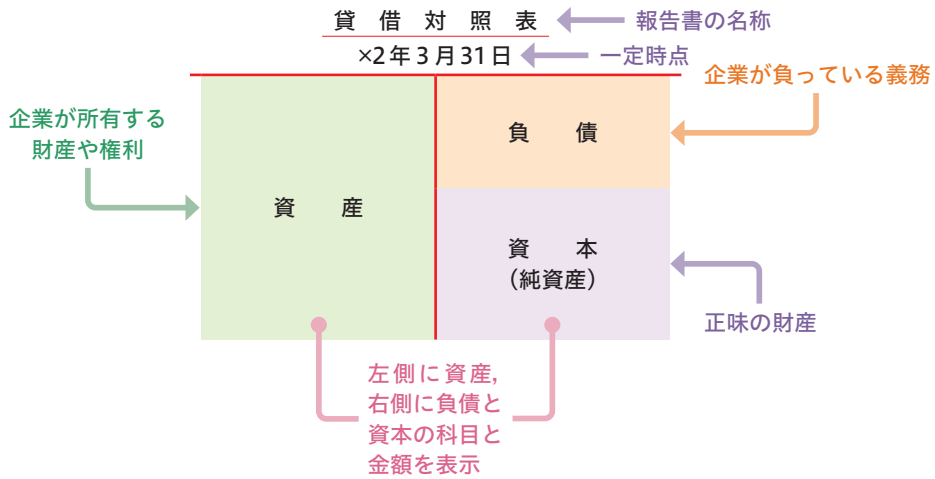
THEME 02

財務諸表と簿記の5要素

簿記の目的は，一定時点の財政状態と一定期間の経営成績を明らかにすることです。そのために報告書として貸借対照表と損益計算書を作成します。この2つの報告書をまとめて**財務諸表（Financial Statements：F/S）**といいます。

1 貸借対照表（B/S）

一定時点の財政状態を明らかにするための貸借対照表には，次のような要素を記載します。



貸借対照表の具体的な記載は以下のようになります。作成手順や形式については第3編のテーマ27で学習します。

貸借対照表

○○株式会社　×2年3月31日　（単位：円）

資産	金額		負債及び純資産	金額
現金		31,000	買掛金	12,220
売掛金	10,000		借入金	3,000
貸倒引当金	△ 200	9,800	未払法人税等	2,000
商品		100	未払費用	30
前払費用		50	資本金	20,000
備品	5,000		利益準備金	1,000
減価償却累計額	△ 2,700	2,300	繰越利益剰余金	5,000
		43,250		43,250

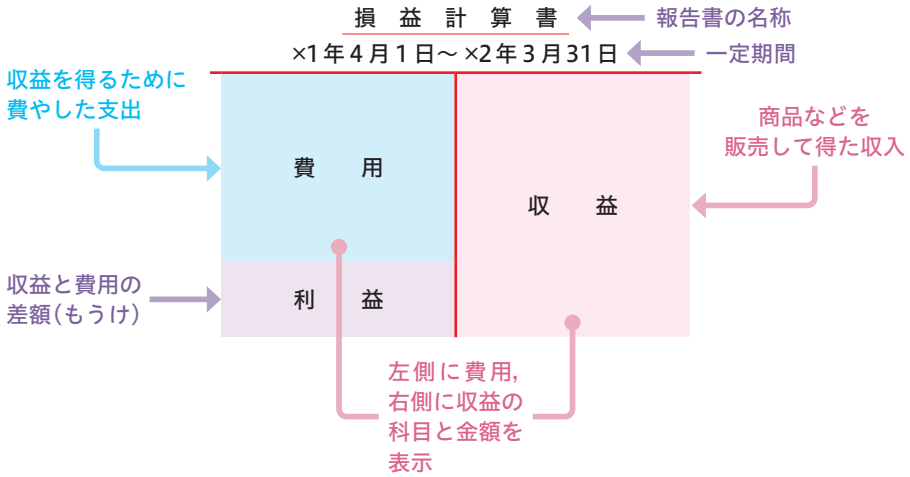
（注）表中の△マークは「控除する（マイナスする）」ことを意味します。

貸借対照表の資産・負債・資本の関係は，次のような式で表すことができます。

- 資産 － 負債 ＝ 資本（純資産）… 資本等式
- 資産 ＝ 負債 ＋ 資本（純資産）… 貸借対照表等式

2 損益計算書（P/L）

一定期間の経営成績を明らかにするための損益計算書には，次のような要素を記載します。



損益計算書の具体的な記載は以下のようになります。作成手順や形式については第3編のテーマ27で学習します。

損 益 計 算 書

○○株式会社　×1年4月1日～×2年3月31日　（単位：円）

費用	金額	収益	金額
売上原価	11,500	売上高	26,500
給料	8,820		
貸倒引当金繰入	120		
保険料	70		
減価償却費	900		
支払利息	90		
法人税，住民税及び事業税	2,000		
当期純利益	3,000		
	26,500		26,500

損益計算書の収益・費用の関係は，次のような式で表すことができます。

- 収益 － 費用 ＝ 利益（資本を増やす金額）… 損益等式
- 費用 ＋ 利益 ＝ 収益　… 損益計算書等式

3 簿記の５要素

貸借対照表に表示する**資産**，**負債**および**資本**，損益計算書に表示する**収益**と**費用**を，**簿記の５要素**といいます。それぞれの要素は，記録（報告）するときに，その内容に合わせて名称をつけます。この名称のことを**勘定科目**といい，第２編のテーマ04以降で詳しく学習していきます。

また，この簿記の５要素について，記録・計算・集計し，最終的に財務諸表を作成します。つまり，簿記の手続きは，「**簿記の５要素の増減について記録すること**」ということができます。

確認問題 02

解答解説 → P286

次の空欄①～⑤に当てはまる適切な語句を下記の 語群 から選んで記入しなさい。

語群　資産　負債　資本　収益　費用

財政状態を明らかにする貸借対照表と経営成績を明らかにする損益計算書は，次のように内容を表示します。

貸借対照表

（　①　）	（　②　）
	（　③　）

損益計算書

（　⑤　）	（　④　）
当期純利益	

①（　　）②（　　）③（　　）④（　　）⑤（　　）

ここが POINT

簿記の手続きは，企業が**簿記の５要素の増減**を記録すること。

企業の**財政状態**および**経営成績**を明らかにすることを目的として，貸借対照表に記載する**資産**・**負債**・**資本**の各項目，損益計算書に記載する**収益**・**費用**の各項目について，記録・計算・集計する。

THEME 03

日常の手続き

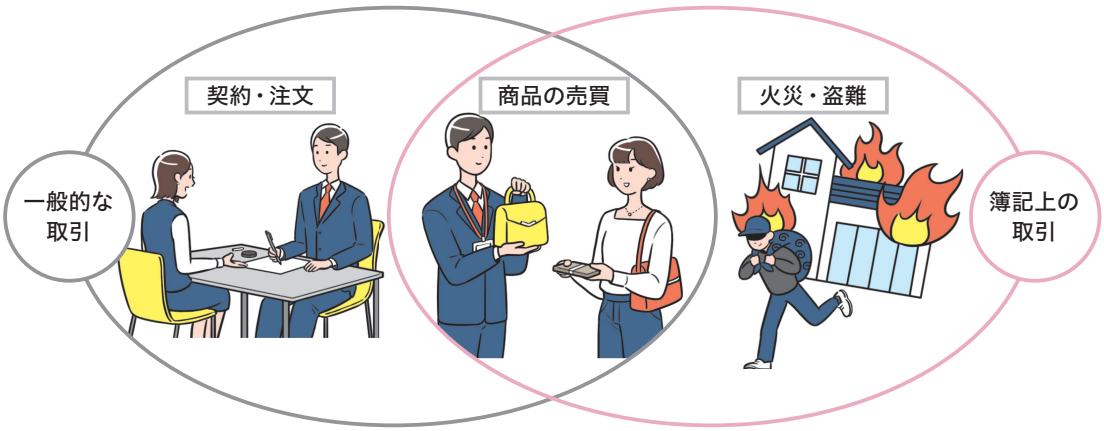
1 記帳のルール

簿記では，帳簿に記録（記入）することを「記帳する」といいます。

1 取　引

簿記で記録する内容は，原則として，**簿記の5要素の増減**です。これを「**簿記上の取引**」といいますが，「一般にいう取引」とは少し異なります。

簿記上の取引になるものとならないもの



	取引例
商品の売買 一般的な取引であり，簿記上の取引でもある場合 	・商品の売買取引や代金を現金で支払う取引など たとえば， 商品を仕入れる　　：商品という資産が増える 代金を現金で支払う：現金という資産が減る ⇨ 簿記上の取引
契約・注文 一般的には取引であるが，簿記上は取引とならない場合 	・建物を借りる契約や商品を電話で注文するなど 契約や口約束をするだけでは資産・負債・資本（純資産）が増減したり，収益・費用が生じたりしません。 ⇨ 簿記上の取引ではない ※契約にもとづいて，実際に賃料を支払ったり，商品を仕入れたりしたときには簿記上の取引になります。
火災・盗難 一般的には取引とはならないが，簿記上の取引となる場合 	・現金や商品が盗まれた場合や火災により建物が焼失した場合など たとえば， 現金が盗まれた　　：現金という資産が減る 火災で建物が焼失した：建物という資産が減る ⇨ 簿記上の取引

簿記では，「簿記上の取引」のみを記録します。

確認問題 03

解答解説 → P286

次の１．～４．のうち簿記上の取引にならないものを番号で答えなさい。

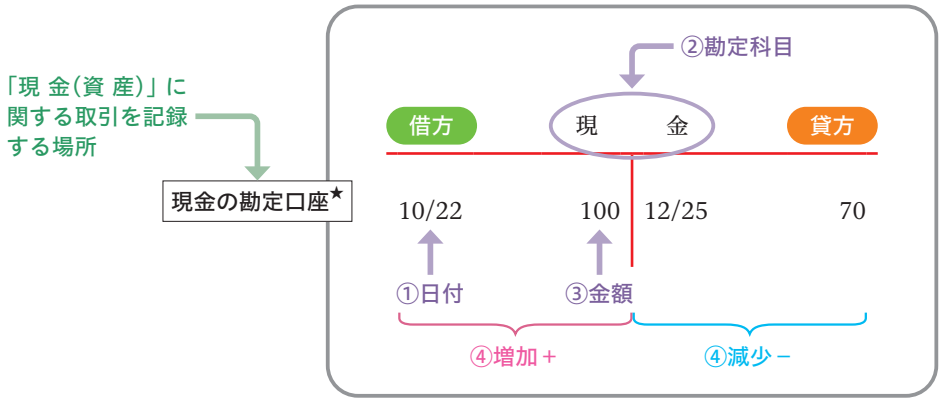
１．１か月後に現金100,000円を借り入れる契約をした。
２．地震により商品50,000円が破損したので，廃棄処分した。
３．会社の現金のうち30,000円が紛失した。
４．従業員を１か月250,000円の給料で雇い入れた。

2　記帳内容

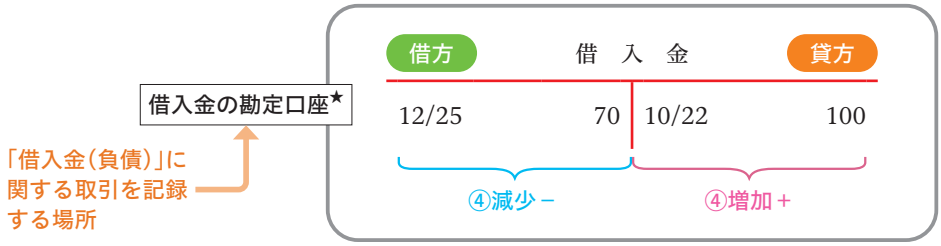
取引について，**勘定口座**（かんじょうこうざ）に次の内容を記録します。勘定口座とは，**簿記上の取引を項目ごとに記録する場所**をいいます。

①　日付	**取引のあった日付**です。
②　勘定科目	**勘定につける名称**のことです。勘定とは，記録・計算単位のことをいい，簿記の５要素にしたがって設定されます。勘定に**勘定科目**をつけることにより，取引を項目ごとに記録する場所である**勘定口座**が完成します。たとえば，現金に関する取引であれば，資産の勘定に「現金」という勘定科目をつけることで，現金に関する取引を記録する場所である「現金」の勘定口座が完成します。
③　金額	各勘定科目の増減を金額で表します。
④　増減（発生・消滅）	各勘定科目の増減は，勘定口座の左側と右側に書き分けることで記録します。なお，簿記では，左側のことを**借方（かりかた）**，右側のことを**貸方（かしかた）**といいます。 この借方と貸方に，借りる，貸すという意味はありません。**単なる左側と右側**のことを意味します。

たとえば，「現金（資産）」に関する取引は，下記のように記録します。



なお，「借入金（負債）」に関する取引の場合，貸方が増加，借方が減少になります。



★勘定口座

勘定口座は単に「勘定」と省略することが一般的です。現金の勘定口座であれば「**現金勘定**」，借入金の勘定口座であれば「**借入金勘定**」と省略します。

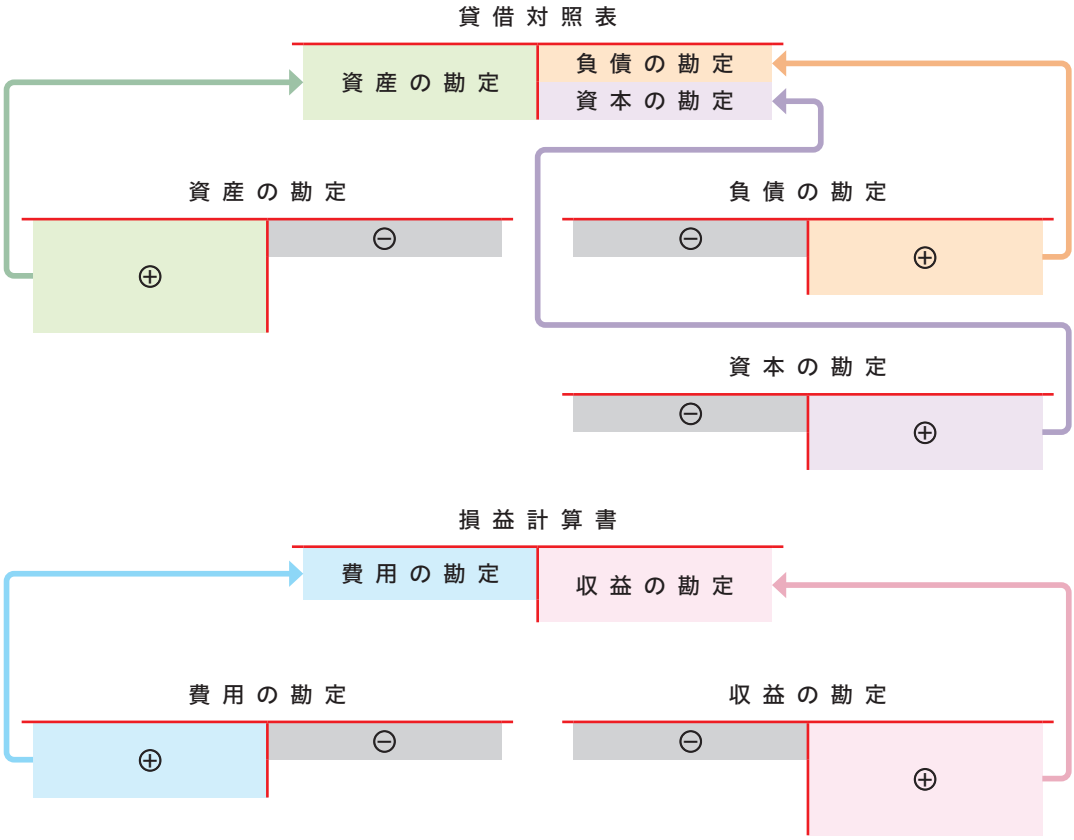
本書でも○○の勘定口座は「**○○勘定**」と省略して説明します。

3 増減（発生・消滅）を記帳するときのルール

記帳する際に，その要素が，５要素（資産・負債・資本・収益・費用）のいずれに該当するかによって，また，その要素が増えた（発生した）場合，減った（消滅した）場合によって，勘定の「借方（左側）に書くのか，貸方（右側）に書くのか」が決められています。

① **資産**の勘定は，**増加を借方（左側）**，減少を貸方（右側）
② **負債**の勘定は，減少を借方（左側），**増加を貸方（右側）**
③ **資本**の勘定は，減少を借方（左側），**増加を貸方（右側）**
④ **収益**の勘定は，消滅を借方（左側），**発生を貸方（右側）**
⑤ **費用**の勘定は，**発生を借方（左側）**，消滅を貸方（右側）

記録する５要素の勘定の増加（発生）側と，貸借対照表・損益計算書の５要素の記載場所は一致する関係にあります。



ここで示した借方（左側）・貸方（右側）の記入は，記録や報告をするときだけでなく，記録した内容を読み取るときなどにも必要な**簿記の重要なルール**です。確実に理解してください。

５要素の増加側（発生側）を覚えましょう。減少（消滅）は，その反対側になります。

2 仕訳と転記

取引（勘定科目の増減）は，**仕訳**による指示にもとづいて，勘定に記録します。

1 仕　訳

仕訳とは，取引を借方要素と貸方要素に分けて日付順に記録することをいいます。

仕訳を記録する帳簿を**仕訳帳**といい，簿記のルールに従って記録した企業の日記帳のようなものです。

次の Step1 から Step4 により，仕訳を考えます。

Step1 取引の内容を把握する。
Step2 ２つ以上の増減した勘定科目を選ぶ。
Step3 それぞれの勘定科目を５要素の増減（発生・消滅）のルール（P13）に従って借方または貸方に記入する。
Step4 それぞれの勘定科目について増減（発生・消滅）した金額を計算（決定）する。

なお，仕訳の借方金額と貸方金額は必ず一致します（**貸借平均の原理**）。

Step1 取引の内容を把握する。

〈**取引例**〉10月22日に銀行から現金100円を借り入れた。

Step2 ２つ以上の増減した勘定科目を選ぶ。

〈**取引例**〉10月22日に銀行から現金100円を借り入れた。

現金勘定 が増加した　　借入金勘定 が増加した

Step3 それぞれの勘定科目を５要素の増減（発生・消滅）のルール（P13）に従って借方または貸方に記入する。

〈**取引例**〉10月22日に銀行から現金100円を借り入れた。

現金勘定が増加した → 資産の増加 → 借方 に記入

借入金勘定が増加した → 負債の増加 → 貸方 に記入

10/22	（現　　金）	（借　入　金）

Step4 それぞれの勘定科目について増減（発生・消滅）した金額を計算（決定）する。

〈**取引例**〉10月22日に銀行から現金100円を借り入れた。

現金勘定と借入金勘定が 100円 増加した

10/22	（現　　金）	100	（借　入　金）	100

上記 Step1 から Step4 により仕訳を行うと下記のようになります。

10/22	（現　　金）	100	（借　入　金）	100
日付	借方の勘定科目	借方の金額	貸方の勘定科目	貸方の金額

2 転　記

仕訳をもとにして，借方・貸方それぞれの科目の勘定に書き移します。これを，「仕訳を勘定に**転記する（勘定記入する）**」といいます。

各勘定を綴った帳簿を**総勘定元帳**（そうかんじょうもとちょう）といい，総勘定元帳の記録が，財務諸表を作成するときの基礎となります。

次の Step1 から Step3 の順で転記（勘定記入）を行います。

Step1 仕訳の借方・貸方の科目と金額を確認する。
Step2 該当する科目の勘定を選ぶ。
Step3 仕訳の借方記入はその勘定の借方に，貸方記入はその勘定の貸方に記入する。

なお，記入する内容は，日付・相手勘定科目・金額の３つです。

〈**取引例**〉10月22日に銀行から現金100円を借り入れた。

Step1 仕訳の借方・貸方の科目と金額を確認する。

日付	借方の勘定科目	借方の金額	貸方の勘定科目	貸方の金額
10/22	（現　　金）	100	（借　入　金）	100

10/22 付で「現金」勘定の借方に 100 円記録しなさいという指示

10/22 付で「借入金」勘定の貸方に 100 円記録しなさいという指示

Step2 該当する科目の勘定を選ぶ。
Step3 仕訳の借方記入はその勘定の借方に，貸方記入はその勘定の貸方に記入する。

⊕ 現　金 資産 ⊖

10/22	100

⊖ 借　入　金 負債 ⊕

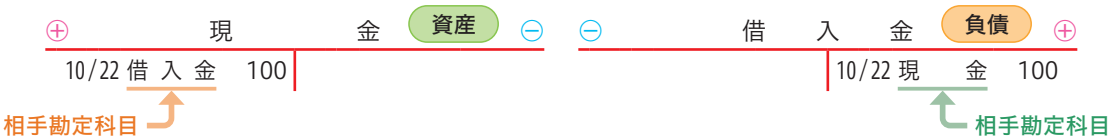
10/22	100

これにより**10月22日付**で現金勘定に**現金が100円増加したこと**と，借入金勘定に**借入金が100円増加したこと**が記録されます。

（仕訳の）**右は**，（勘定の）**右に**
（仕訳の）**左は**，（勘定の）**左に**転記します。

ただし，このままでは10月22日に現金がなぜ増加したのか，借入金として何を受け取ったのかが判明しないので，日付と金額の間に**補足情報**として**相手勘定科目**を付け加えます。

なお，相手勘定科目が２つ以上（複数）ある場合には，相手勘定科目を複数記入する代わりに「**諸口**（しょくち）」と記入します。



これにより，現金勘定を見れば，10月22日に現金が100円増加したことと，**現金100円の増加は借入れによること**が判明します。

また，借入金勘定を見れば，10月22日に借入金が増加したことと，**借入れにより受け取ったのは現金であること**が判明します。

相手勘定科目から考えると混乱しやすいので，まずは①**日付と金額を転記**して②**相手勘定科目を記入**します。

例 題 01　仕訳と転記

次の１年間の取引を，日付順に仕訳し，勘定に転記しなさい。なお，仕訳と転記に用いる勘定科目は次の中から選ぶこと。

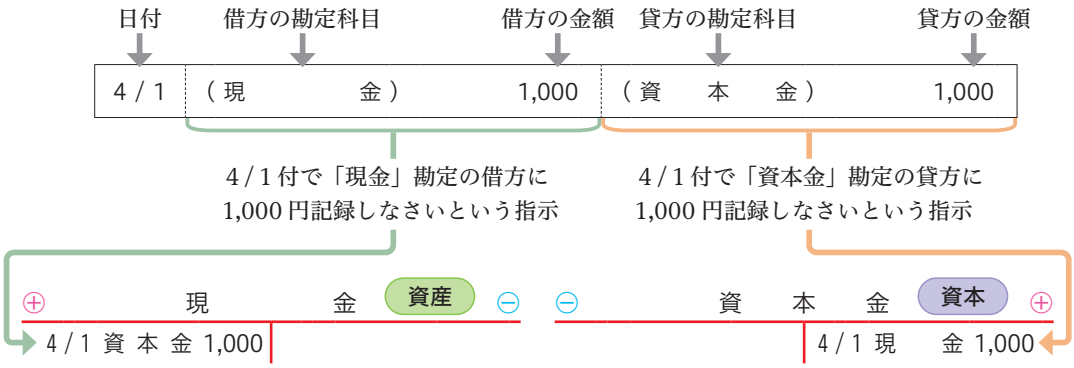
勘定科目　現金　借入金　資本金　売上　仕入

1．４月１日，株式会社設立にあたり，株式を1,000円で発行し，株主より現金で受け取った。
2．８月１日，銀行より現金1,000円を借り入れた。
3．11月１日，商品700円を仕入れ，代金は現金で支払った。
4．２月１日，商品を900円で販売し，代金は現金で受け取った。

1．4月1日：会社の設立

会社設立時に株式を発行し，その株式を購入した株主から資金提供（現金の受け取り）を受け活動資金とします。

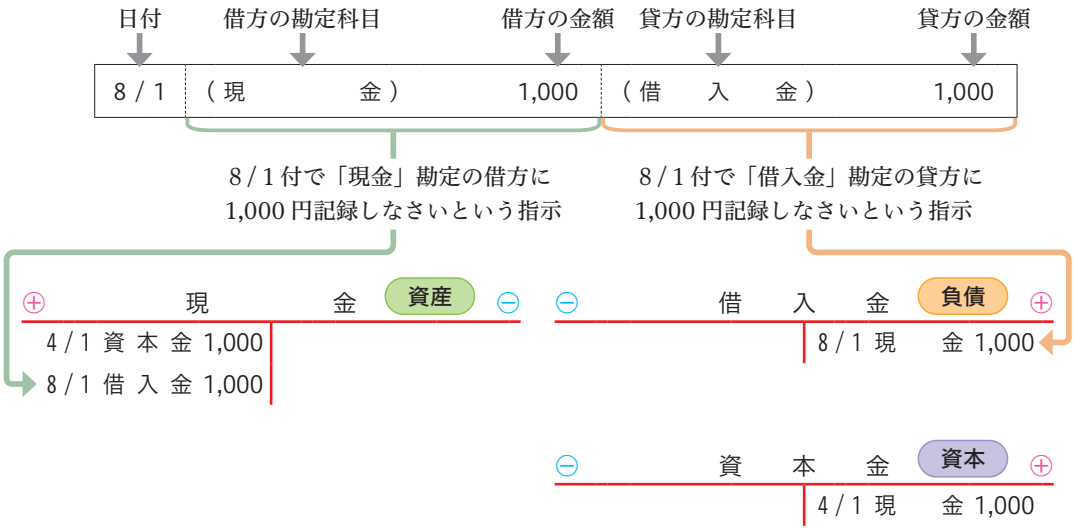
現金の受け取りにより**現金（資産）の増加**を記録します。また，株式を発行することにより，株式会社の元手である**資本金（資本）の増加**を記録します。



2．8月1日：借入れ

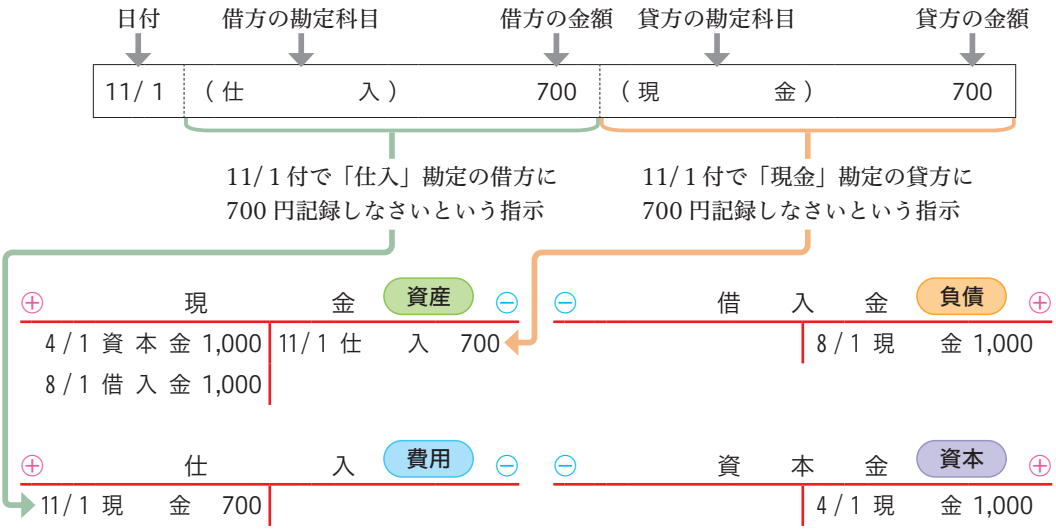
借入れとは，他者から資金を提供してもらい，あとで返す契約を結ぶことです。

現金を借りたことで**現金（資産）が1,000円増加**します。また，借り入れた現金はあとで銀行に返さなければならない**借入金（負債）の増加**として記録します。



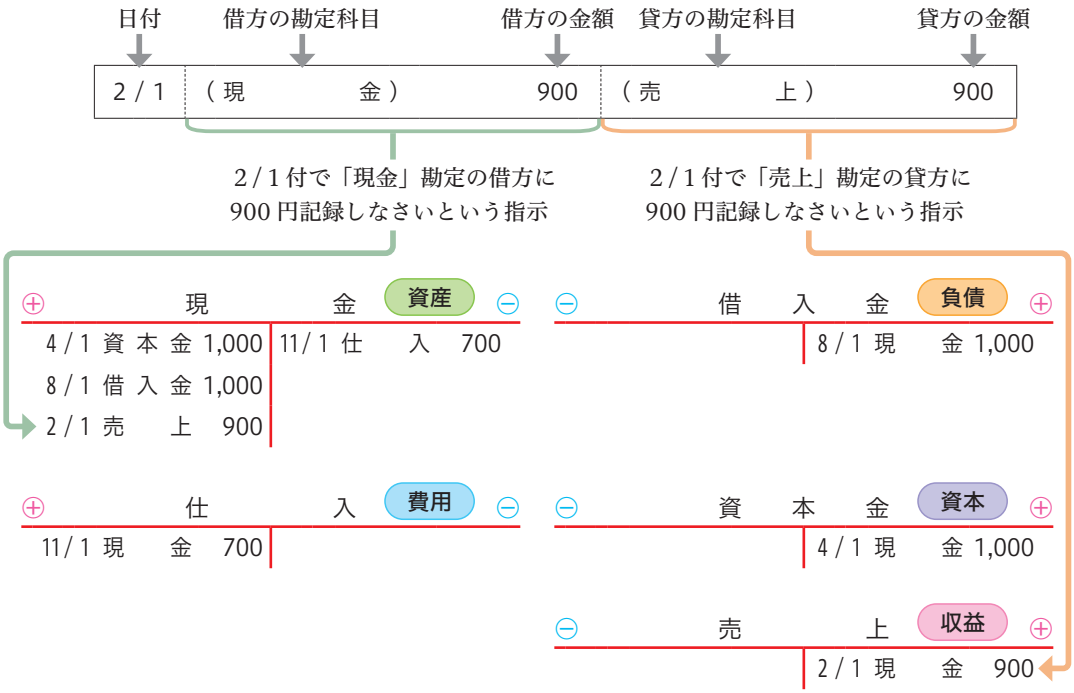
3．11月1日：仕入れ

仕入れとは，販売するための物品（商品）を購入することです。仕入れることで商品700円が増加しますが，このあと商品を販売することにより，売上収益を得ることを見越して，売上収益を獲得するための費用が発生したと考え，**仕入（費用）の発生**として記録し，支払った700円は**現金（資産）の減少**として記録します。



4．2月1日：販売（売り上げ）

販売する（売り上げる）とは，「商品を引き渡すこと」と，「代金を受け取ること」をいいます。受け取った代金900円は**現金（資産）の増加**として記録し，引き渡した商品については**売上（収益）の発生**として記録します。



確認問題 04

解答解説 → P286

次の取引を，1．日付順に仕訳し，2．転記しなさい。なお，仕訳と転記に用いる勘定科目は次の中から選ぶこと。

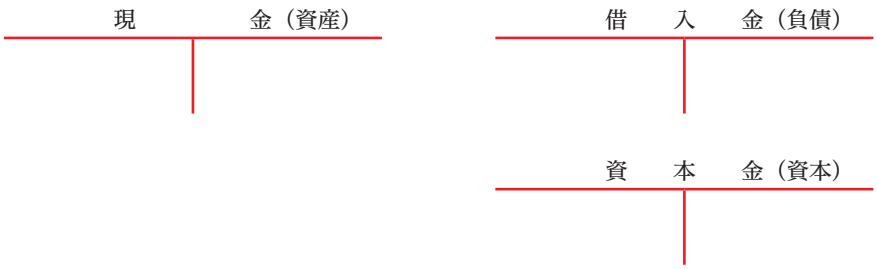
勘定科目　現金　借入金　資本金

4月1日，株式会社設立にあたり，株式を2,000円で発行し，株主より現金で受け取った。
7月1日，銀行より現金1,500円を借り入れた。

1．仕　訳

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4／1				
7／1				

2．転　記



Supplement
借方と貸方

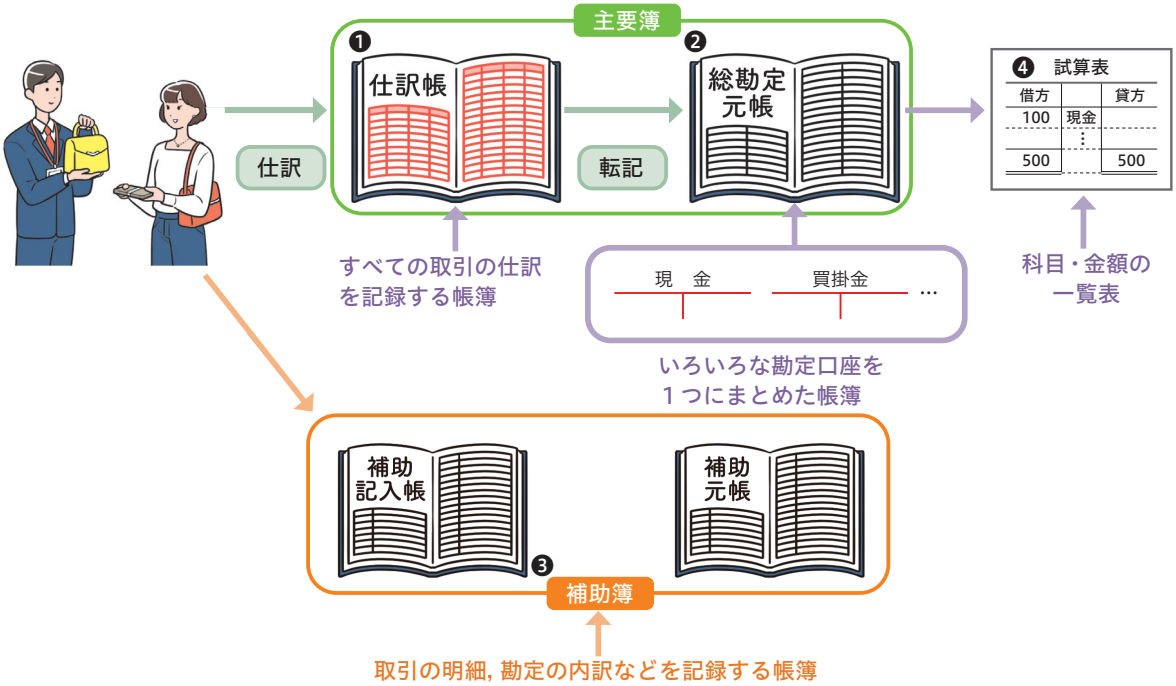
借方と貸方は，取引を勘定の左右に分けて記入するときの左側と右側を表す簿記独自の呼び方です。元々は借り手や貸し手という意味がありましたが，現在はそのような意味はなくなっているので，単に，「かりかた」は「り」が左にはらうので，「**左側**」を表すもの，「かしかた」は「し」が右にはらうので，「**右側**」を表すものと覚えましょう。

3 記帳手続（日常の手続き～帳簿への記録～）

期中においては，取引を❶仕訳帳に日付順に仕訳し，次に，仕訳の指示により❷総勘定元帳の勘定に転記します。この仕訳と転記が，簿記の手続きにおいて最低限必要な記録です。この２つを記録する帳簿（❶仕訳帳と❷総勘定元帳）を総称して**主要簿**（しゅようぼ）といいます。

なお，主要簿には，基本的に「日付・勘定科目・金額・借方と貸方による増減（発生・消滅）」を記録します。その他の内容（取引の相手先，取引の条件など）の記録を行う場合は，任意で帳簿を設けます。これを❸**補助簿**（ほじょぼ）といいます。

毎日の取引を記録することで，総勘定元帳のページ数が増え，科目の種類や記載内容を把握しづらくなってきます。そこで，定期的に勘定科目と金額の一覧表を作成します。これを❹**試算表**（しさんひょう）といいます。また，試算表は転記の誤りを確認するためにも用いられます。



❸の補助簿には，特定の取引の詳細を発生順に記録していくことにより，仕訳帳を補助する**補助記入帳**（ほじょきにゅうちょう）と，各勘定の内訳明細を記録していくことにより，総勘定元帳を補助する**補助元帳**（ほじょもとちょう）があります。

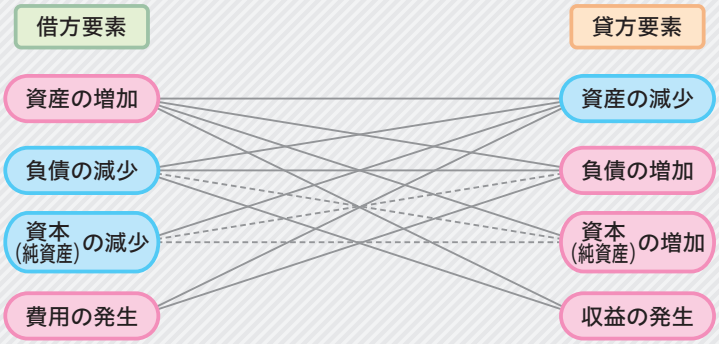
なお，帳簿体系や帳簿の種類，形式等については，テーマ05・14で学習します。

Supplement

取引の８要素

簿記上の取引は，次に示す借方要素と貸方要素の結びつきにより整理できます。収益と費用の消滅は，一般的な取引ではないので，あまり考えなくてもよいでしょう。

取引の８要素



（注）点線で結ばれた取引は，まれにしか生じません。

取引は，上の図の８つの要素の結びつきで整理することができるため，これを**取引の８要素**といいます。

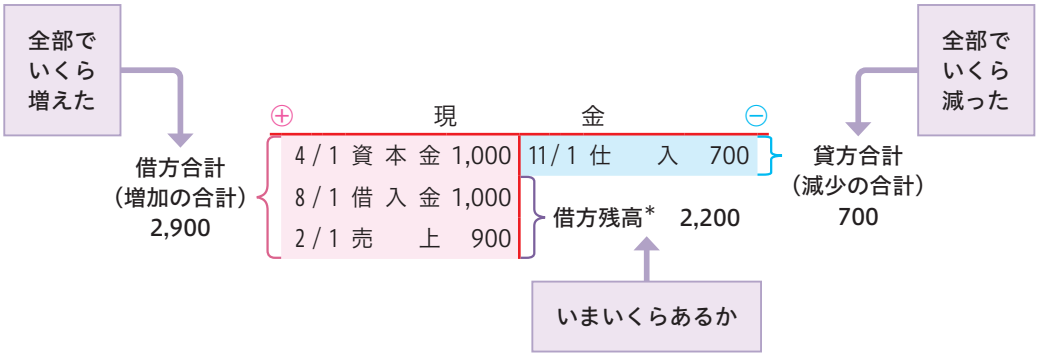
なお，借方要素と借方要素，貸方要素と貸方要素が結びつくことはありません。

借方要素と貸方要素が結びつく取引の例をあげると次のとおりです。

借方要素	貸方要素	
資産の増加	資産の減少	手許の現金を銀行の預金口座に預け入れた。
	負債の増加	銀行から現金を借り入れた。
	資本（純資産）の増加	会社設立につき株式を発行し，現金で受け取った。
	収益の発生	商品を売り上げ，代金を現金で受け取った。
負債の減少	資産の減少	借入金を現金で返済した。
	負債の増加	買掛金（かいかけきん）（代金を後日払いとした場合の債務）を手形（支払いを約束した証書）で支払った。
費用の発生	資産の減少	広告費を現金で支払った。
	負債の増加	商品を仕入れ，代金はあとで支払うこととした。

4 合計・残高

たとえば，例題 01 の「現金」は資産の科目なので，借方は増加，貸方は減少を表します。現金勘定の記録により，**いつ，いくら増えて（全部でいくら増えて：合計），いつ，いくら減って（全部でいくら減って：合計），いま，いくらあるか（借方の合計と貸方の合計の差額によって求められる：残高）**などがわかります。



＊ 残高とは，借方合計と貸方合計の差額をいいます。
借方合計 2,900 − 貸方合計 700 = 2,200（借方残高）

Supplement

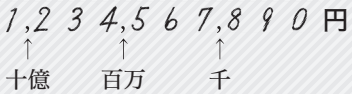
数字・文字の記入の仕方について

仕訳帳や総勘定元帳に数字や文字を記入する際には，次の点に注意しながら丁寧に書きましょう。記録した内容は，書いた本人だけが見るのではなく，他人の目にもふれるので，読み誤ることがないように，正確に書かなければなりません。

① 数字は下の線につけて書きます。

② 文字は丁寧に，行間の３分の２程度の大きさで，数字は行間の２分の１程度の大きさで書きます。

③ 数字は３桁ごとにコンマ「,」で区切ります。コンマは筆記体で「,」（左下向き）で書きます。「.」や「、」だとピリオドや小数点になるので注意しましょう。



ちょっと
ひといき

複式簿記のはじめ

イタリアの数学者ルカ・パチオリ（Lucas Pacioli）が出版した『ズンマ』という本が，複式簿記についてのはじめての解説書といわれています。
1494年に刊行された，正式には『算術・幾何・比および比例全書（Summa de Arithmetica Geometrica, Proportional et Proportionalita)』という数学の本の中で，「計算および記録詳論（Partioularis de Computis et Scripturin)」というタイトルで，複式簿記について詳しく紹介されています。彼が『ズンマ』を刊行したのは49歳のときでした。
彼は1445年，イタリア北部の小さな田舎町で生まれ，少年期に宗教学校で文法，討論術などを学び，さらに当時の名高い芸術家，数学者からも教えを受けました。
青年期にはイタリアのベネチアに行き，豪商の家庭教師となり，この地で数学者としての基礎を築いたといわれています。30代のころ僧団に入団し，その後ピサ大学，ボローニャ大学など各地の大学で数学を教え，晩年は故郷に帰り修道院長となったそうです。

5 試算表の作成（テーマ 15 で学習）

1 試算表とは

総勘定元帳の各勘定科目の記録を一覧表にしたものを**試算表（Trial Balance：T/B）**といいます。試算表で一定時点の勘定記録全体を一覧し，誤りがないか確認します。

試算表は以下のように作成します。

Step1 **総勘定元帳から，すべての勘定科目を書き出します。**
Step2 **勘定科目ごとに，金額を計算し記入します。**

記入する金額は，試算表の種類によって，借方・貸方それぞれの合計，借方と貸方の差額で求める残高などがあります。

2　試算表の種類

試算表は集計の仕方によって，**合計試算表**，**残高試算表**，**合計残高試算表**の３種類があります。

例題 01 の現金勘定で示すと以下のようになります。

合 計 試 算 表

借方	勘定科目	貸方
2,900	現　　金	700

勘定の**借方合計**と**貸方合計**を集計した一覧表です。

残 高 試 算 表

借方	勘定科目	貸方
2,200	現　　金	

勘定の**借方残高**または**貸方残高**を集計した一覧表です。

合計残高試算表

借方		勘定科目	貸方	
残高	合計		合計	残高
2,200	2,900	現　　金	700	

合計試算表と**残高試算表**を１つにまとめた一覧表です。

試算表の種類は，その名前に注目しましょう。
- 勘定の**合計**を集計するから**合計**試算表
- 勘定の**残高**を集計するから**残高**試算表
- 勘定の**合計**と**残高**をどちらも集計するから**合計残高**試算表

例　題 02　残高試算表の作成

例題 01 の勘定記録をもとに，残高試算表を作成しなさい。

現　　金（資産）

4 / 1 資 本 金 1,000	11/ 1 仕　　入　700
8 / 1 借 入 金 1,000	
2 / 1 売　　上　900	

借　　入　　金（負債）

	8 / 1 現　　金 1,000

仕　　入（費用）

11/ 1 現　　金　700	

資　　本　　金（資本）

	4 / 1 現　　金 1,000

売　　上（収益）

	2 / 1 現　　金　900

残高試算表

残高試算表
×2年3月31日

借方	勘定科目	貸方
2,200	現金	
	借入金	1,000
	資本金	1,000
	売上	900
700	仕入	
2,900		2,900

1,000円＋1,000円
＋900円－700円

3 転記の正確性の検証

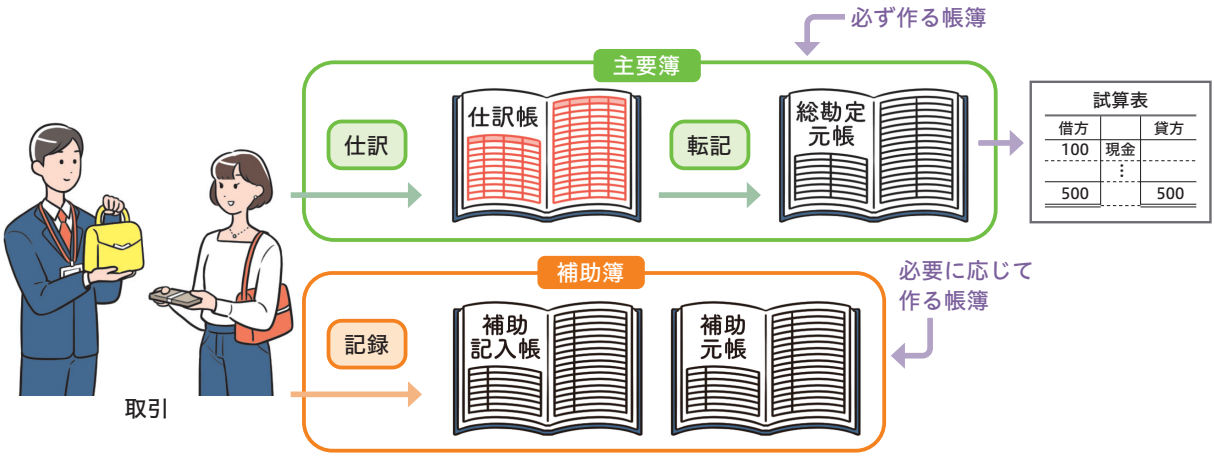
仕訳は，借方と貸方の金額がつねに一致します。転記のとき勘定の借方に記入した金額は，必ずほかの勘定の貸方にも記入するので，すべての勘定の借方総合計と貸方総合計，さらに借方残高と貸方残高のそれぞれの総合計も必ず一致します（貸借平均の原理）。このことから，試算表の貸借が一致するかどうかによって，転記ミスの有無を検証することができます。

ただし，誤った仕訳であっても金額が一致しているときは，試算表では検証できません。

6 日常の手続きのまとめ

期中における簿記の日常の手続きをまとめると次のようになります。

簿記の日常の手続き



ここが POINT

記帳のルールは以下のとおりである。

①**資産と費用は，増加（発生）を借方**，減少（消滅）を貸方に記録し，**負債と資本と収益は，増加（発生）を貸方**，減少（消滅）を借方に記録する。

②主要簿には「**日付**・**勘定科目**・**金額**」を記録し，その他の詳細な内容は補助簿に記録する。

③仕訳の借方金額合計，貸方金額合計は必ず一致する。

ちょっと
ひといき

帳簿のはじめ

古代ローマでは，ワックスを塗った「ロウ塗板」をいくつか結びつけたものを帳簿として使用していました。これをコーデックスといい，ラテン語で木の幹，木片を意味します。

その後，帳簿の素材は羊皮紙（パーチメント），さらにパピルス・紙へと変わっていきます。板の帳簿では運ぶのが大変だったでしょうね。

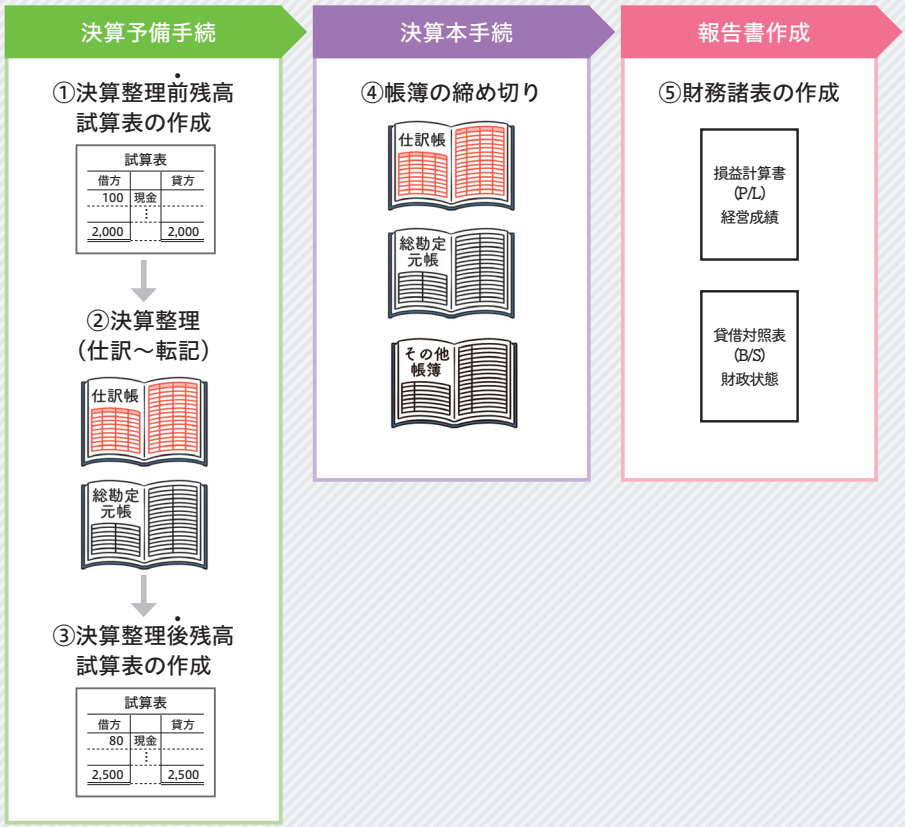
ルカ・パチオリが刊行した『ズンマ』では，元帳は帳簿の見開き１ページの左面と右面を，それぞれ借方，貸方とすると解説されており，19世紀までこの方式が続いていたようです。

昔，紙は高価なものだったはずですが，ずいぶん贅沢（ぜいたく）な使い方をしていたようですね。

Supplement

期末の手続き～決算～

期末に，勘定記録の一覧である試算表（**①決算整理前残高試算表**）を作成します。この試算表をもとにして，勘定記録の確認や修正を行いますが，これを**②決算整理**といい，必要な修正について，仕訳と転記を行い，**③決算整理後残高試算表**を作成します。決算整理後の各勘定残高が１年間の経営成績と期末の財政状態を表す最終的な金額です。ここで**④各帳簿を締め切り**，最後に外部報告用の**⑤財務諸表**（**貸借対照表**と**損益計算書**）を作成します。期末に行われるこの手続きを，**決算**または**決算手続**といいます。



なお，決算手続については，テーマ16以降で詳しく学習します。

1　決算整理前残高試算表の作成

すべての期中取引の仕訳と転記が終わったら，決算整理前の残高試算表を作成します。この試算表をもとにして決算の手続きを進めます。

決算整理前残高試算表
×2年3月31日

借　方	勘　定　科　目	貸　方
2,200	現　　金	
	借　入　金	1,000
	資　本　金	1,000
	売　　上	900
700	仕　　入	
2,900		2,900

ホントに2,200円あるかな？

売れ残りはないかな？

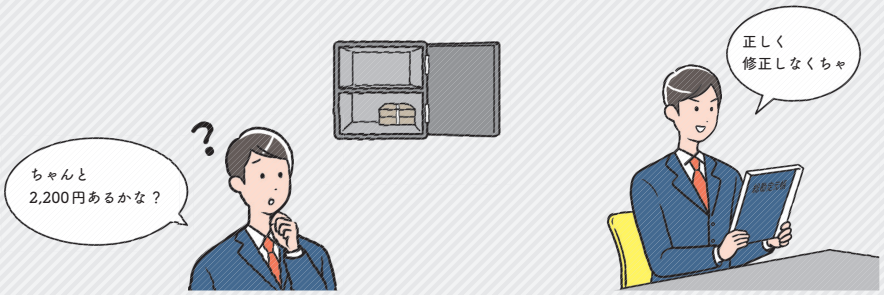
今年の収入は900円。もうけはいくら？

2　決算整理

試算表（勘定記録）をもとに，各勘定残高を確認し，必要な修正を行います。

- 現金について実査して，本当にその金額があるかどうか確認する。
- 商品の売れ残りがないかどうか確認し，売れた金額を計算する。
- 使用している建物などの価値の減少を計算をする。
- 納付する法人税などの金額を計算する。　　など

なお，決算整理の内容が明らかになったら，精算表（せいさんひょう）を用いて，貸借対照表や損益計算書に記載する金額を計算します。



3　決算整理後残高試算表の作成

決算整理の仕訳と転記が終わったら，決算整理後の残高試算表を作成し，修正後の勘定残高に誤りがないか検証します。

4　帳簿の締め切り

さらに，決算では，財務諸表を作成する前に，帳簿上で会計期間の区切りをつけるため，締切記入の手続きを行います。

5　財務諸表の作成

決算整理後（締め切り後）の金額をもとに，財政状態と経営成績を報告するために貸借対照表と損益計算書を作成します。

例　題　財務諸表の作成

次の期末における決算整理後残高試算表により，貸借対照表と損益計算書を作成しなさい（会計期間は×1年4月1日から×2年3月31日の1年とする）。

決算整理後残高試算表
×2年3月31日

	借　方	勘定科目	貸　方	
B/S：借方 資産	2,200	現　金		
		借入金	1,000	負債 B/S：貸方
		資本金	1,000	資本 B/S：貸方
		売　上	900	収益 P/L：貸方
P/L：借方 費用	700	仕　入		
	2,900		2,900	

貸借対照表

貸借対照表は，一定時点の財政状態を表す資産・負債・資本（純資産）の報告書です。

貸借対照表
×2年3月31日

現　金	2,200	借入金	1,000
		資本金	1,000
		繰越利益剰余金（注）	200

損益計算書

損益計算書は，一定期間の経営成績を表す収益・費用の報告書です。

仕入勘定は「売上原価」と表示します

売上勘定は「売上高」と表示します

損益計算書
×1年4月1日～×2年3月31日

売上原価	700	売上高	900
当期純利益（注）	200		

（注）損益計算書における収益と費用の差額が当期純利益です。貸借対照表では，繰越利益剰余金（資本）として表示します。

ちょっと
ひといき

本当の最初の簿記の本

複式簿記についての最初の解説書は，ベネディット・コトルーリという裁判官が書いた『商業と完全な商人』といわれています（1458年）。『ズンマ』刊行より36年前のことでしたが，この本の原稿はそのまま115年間，ナポリでだれの目にもふれることなく，眠りつづけました。
悲運というほかないですね。

Supplement

純損益の計算

会社がいくらもうけたか，という純損益の計算方法には，財産法（ざいさんほう）と損益法（そんえきほう）の２つがあります。

1　財産法による純損益の計算

財産法とは，期末資本（純資産）の額から期首資本（純資産）の額を差し引くことで，一会計期間の損益を求める方法です。この方法は，もうけていればそれだけ現金などの資産が増え，損をしていればそれだけ現金などの資産が減っているという考えにもとづいています。

期末資本（純資産）の額 － 期首資本（純資産）の額
＝ 当期純利益（マイナスのときは当期純損失）

例　題　財産法による純損益の計算

次の資料により，当期の純損益を求めなさい。

	期首資産	期首負債	期首資本	期末資産	期末負債	期末資本	当期純損益
(1)	80,000円	30,000円	50,000円	85,000円	30,000円	55,000円	？　円
(2)	100,000円	68,000円	32,000円	98,000円	68,000円	？　円	？　円

財産法による純損益の計算

(1)　期末資本（純資産）55,000円－期首資本（純資産）50,000円＝当期純利益5,000円

（期首）B/S

期首資産	期首負債
80,000	30,000
	期首資本
	50,000

（期末）B/S

期末資産	期末負債
85,000	30,000
	期末資本
	55,000

当期純利益
5,000

(2) 期末資産98,000円－期末負債68,000円＝期末資本（純資産）30,000円
期末資本（純資産）30,000円－期首資本（純資産）32,000円＝当期純損失△2,000円

（期首）B/S

期首資産 100,000	期首負債 68,000
	期首資本 32,000

当期純損失 △2,000

（期末）B/S

期末資産 98,000	期末負債 68,000
	期末資本 30,000

2 損益法による純損益の計算

資本（純資産）は，収益による資産などの増加と費用による資産などの減少が原因で増減します。損益法とは，この考え方を用いて，その増加原因である収益の総額と減少原因である費用の総額との差額により，純損益を求める方法です。

収益の総額 － 費用の総額 ＝ 当期純利益（マイナスのときは当期純損失）

なお，資本（純資産）の増減の結果から求める財産法と，原因から求める損益法の計算結果は必ず一致します。

例 題 損益法による純損益の計算

次の資料により，当期の純損益を求めなさい。

期首資本	期末資産	期末負債	期末資本	収益の総額	費用の総額
50,000円	85,000円	30,000円	55,000円	83,000円	78,000円

損益法による純損益の計算

収益の総額83,000円－費用の総額78,000円＝当期純利益5,000円
または，
期末資本（純資産）55,000円－期首資本（純資産）50,000円＝当期純利益5,000円

（期首）B/S

期首資産	期首負債
	期首資本 50,000

P/L

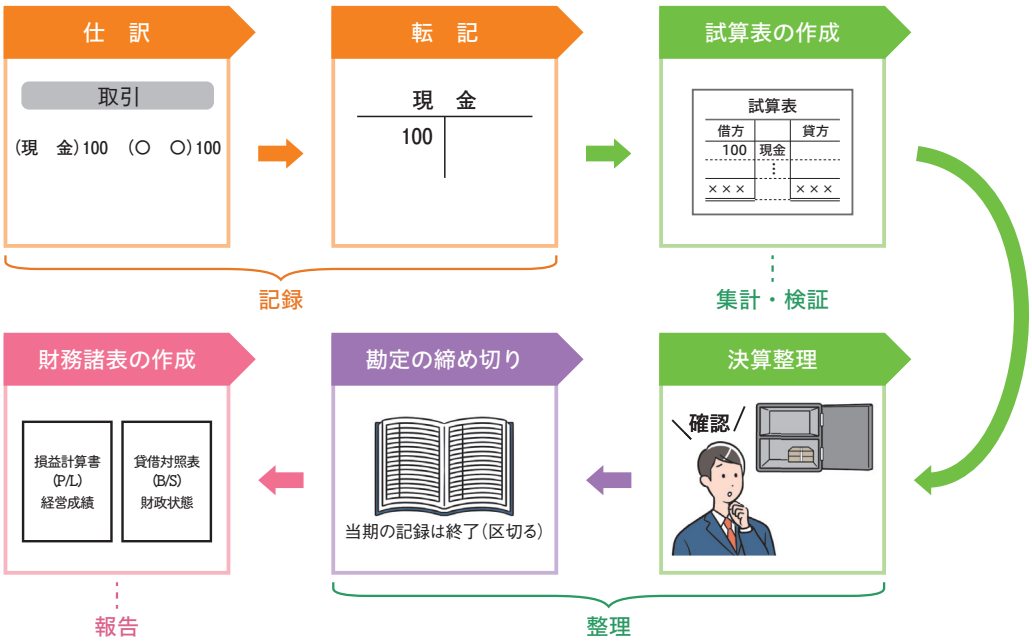
当期純利益 5,000	収益の総額 83,000
費用の総額 78,000	

（期末）B/S

期末資産 85,000	期末負債 30,000
	期末資本 55,000

7 簿記一巡の手続き

決算をもって簿記の手続きは終わり，次期以降これを繰り返すことになります。この，仕訳に始まり決算で終わる一連の手続きを**簿記一巡の手続き**といいます。



Supplement

簿記で使われている略表記

簿記関係の教材や実務では，略語・記号等をよく使います。
代表的なものをいくつか挙げたので参考にしてください。本書でも一部使用しています。

用　語	英　語	内　容	表　記
勘定(口座)	Account	記録する場所	a/c
借　　方	Debtor	左側	Dr
貸　　方	Creditor	右側	Cr
財務諸表	Financial Statements	貸借対照表や損益計算書など	F/S
貸借対照表	Balance Sheet	財政状態の報告書	B/S
損益計算書	Profit and Loss statement	経営成績の報告書	P/L
試　算　表	Trial Balance	勘定記録の集計表	T/B
精　算　表	Work Sheet	決算手続の計算表	W/S
単　　価		単位表示（1単位あたり）	@

8 これからの簿記学習について

近年の簿記の手続きは，コンピュータを利用して行うことが一般的となっています。企業は，業務の合理化のため，コンピュータを活用し，経費削減や迅速な情報活用に役立てています。実際に，コンピュータを用いて簿記の手続きを行うと，「転記」「試算表の作成」「財務諸表の作成」などはボタン１つであっという間に済んでしまいます。

しかし，「仕訳（取引の記録）」や，「決算整理（確認・修正）」は，コンピュータに委ねることができない部分があります。また，コンピュータ処理の結果として出力された各種資料がどのようにして作られたものなのかを理解していなければ，その資料をどう分析し，活用するか正しく判断することができません。

簿記の学習を行うこと，つまり，コンピュータの力を借りずに，実際に紙ベース（頼りとするのは己の頭脳と電卓のみ）で手続きを学習することは，単に入力作業のための知識ではなく，情報を正しく理解することにつながります。

ちょっと
ひといき

借方と貸方ってどんな意味

『ズンマ』では「借方はつねに１人あるいはそれ以上の債務者を表し，貸方は１人あるいはそれ以上の債権者を示す」とあり，取引はすべてこの２つに分解されるという複式仕訳法が強調されています。

また，『明解ドイツ式簿記』（1531年）の著者であるゴートリーブは，貸借について次のような解説を行っています。

・「貸し」は元帳の右である。なぜならば，信用・信頼は右手で表現される。

・財貨の受け入れは左である。なぜならば，保有することは「売る・渡す」ことに先行するからである。

これは，貨幣などの受け入れは先行するので第１の側である借方へ，その引き渡しはあとなので第２の側である貸方へ書くことを意味しています。

貸すのが信用・信頼ならば，借りるのも信用・信頼だと思うのですが…。

THEME 04

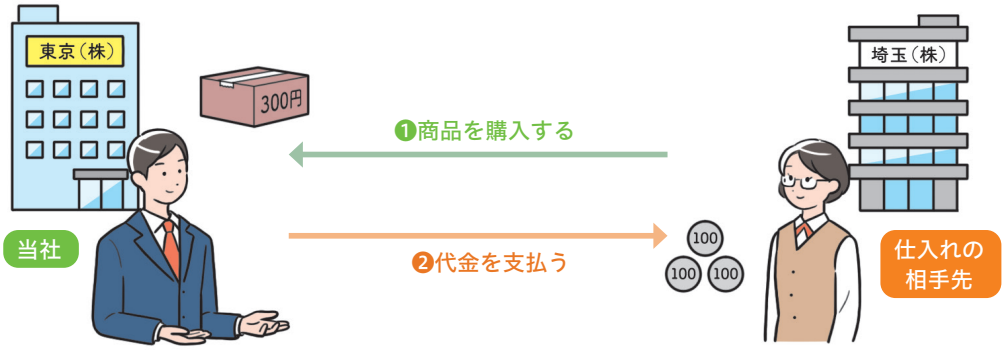
商品売買Ⅰ

1 商品売買取引

販売することを目的として購入した物品を「**商品**」といいます。商品売買業は，商品をできるだけ安く購入し，できるだけ高く販売することで，利益を得ようとする業種です。

1 仕入れ

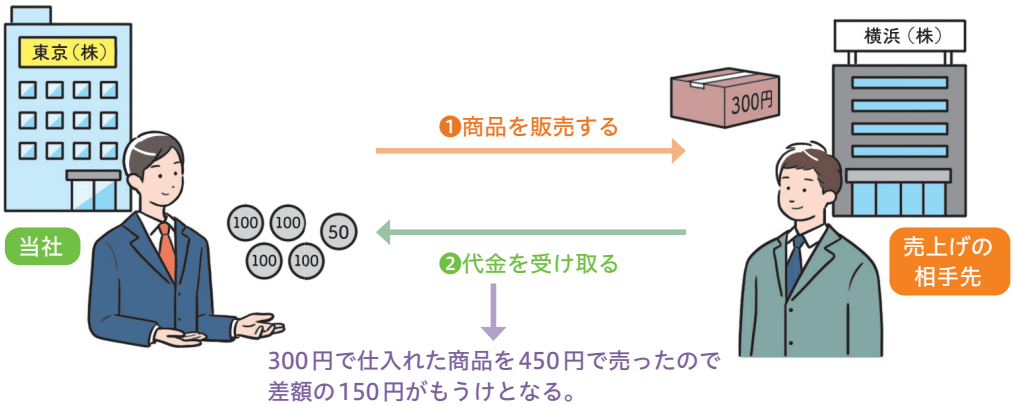
商品を購入する（取得する）ことを「**仕入れる**」といいます。商品以外の物品（たとえば，自ら使うための文房具など）を購入することは，「仕入れる」とはいいません。



商品を仕入れたときは，仕入れた商品本体の代金（仕入原価）と，引き取りに関する代金（運賃や箱代など）の合計額で処理します。これを**取得原価**といいます。

2 売上げ

商品を販売することを「**売り上げる**」といいます。商品以外の物品（たとえば，使用していた金庫など）を売ることは「売却」といい，「売り上げる」とはいいません。



3 仕入代金の支払い・売上代金の受け取り

商品売買の代金の受け払いには，取引方法や，相手先との関係などによっていろいろな処理方法があります。

① その場で現金で支払う，現金を受け取る。
② あとで支払う，あとで受け取る。先に支払う，先に受け取る。
③ 預金口座を利用する（振り込みなど）。
④ 小切手や手形，商品券などの証券を利用する。

4 仕入れ・売上げに関する補助簿（テーマ 14 の Supplement 参照）

商品売買取引は，「取引の相手先，商品名，数量，単価，代金の受け払い方法」などを記録することがあります。このような詳細な記録については，補助簿の**仕入帳・売上帳**に記帳します。

2 三分法

商品売買取引の記帳法として，実務や検定試験では，**三分法**（さんぶんほう）★が広く用いられています。

1 三分法とは

三分法とは，商品売買について，**繰越商品勘定**（くりこししょうひん）（資産）・**仕入勘定**（費用）・**売上勘定**（収益）の 3 つの勘定を用いて記帳する方法をいいます。

⊕ ❶ 繰越商品 資産 ⊖	
売れ残った商品の原価	

⊖ ❸ 売上 収益 ⊕	
	売り上げた商品の売価

⊕ ❷ 仕入 費用 ⊖	
仕入れた商品の原価	

❶ 繰越商品勘定は，期首や期末にある（前期末や当期末に売れ残った）商品の金額を記録する勘定で，期中には用いません。
❷ 仕入勘定は，購入した商品の代金（原価）を記録する勘定です。
なお，繰越商品勘定と仕入勘定の決算における修正についてはテーマ18で学習します。
❸ 売上勘定は，売り上げた商品の代金（売価）を記録する勘定です。

★三分法
商品売買取引を，繰越商品勘定（資産）・仕入勘定（費用）・売上勘定（収益）の**3つに分けて記録する**ことから三分法とよばれています。

（1） 商品を仕入れたとき

商品を仕入れたときは，商品の**取得原価**を**仕入勘定**（費用）の**借方**に記入します。

例 題 01 商品を仕入れたとき

4月3日，埼玉㈱より商品300円（30個，@10円）を仕入れ，代金は現金で支払った。

仕 訳

4 / 3	（仕　　入）	300	（現　　金）	300

転 記

⊕ 現　金（資産） ⊖

××	×××	4 / 3 仕　入	300

⊕ 仕　入（費用） ⊖

4 / 3 現　金	300		

（2） 商品を売り上げたとき

商品を売り上げたときは，**売価**を**売上勘定**（収益）の**貸方**に記入します。

例 題 02 商品を売り上げたとき （例題 01 の続き）

4月15日，横浜㈱に商品を450円（30個，売価@15円）で売り上げ，代金は現金で受け取った。

仕 訳

4 /15	（現　　金）	450	（売　　上）	450

転 記

⊕ 現　金（資産） ⊖

××	×××	4 / 3 仕　入	300
4 /15 売　上	450		

⊖ 売　上（収益） ⊕

		4 /15 現　金	450

⊕ 仕　入（費用） ⊖

4 / 3 現　金	300		

確認問題 05

解答解説 → P286

次の一連の取引を仕訳しなさい。なお，仕訳に用いる勘定科目は次の中から選ぶこと。

勘定科目　現金　売上　仕入

1．兵庫㈱から商品2,000円を仕入れ，代金は現金で支払った。
2．愛知㈱に上記1．の商品を2,700円で売り上げ，代金は現金で受け取った。

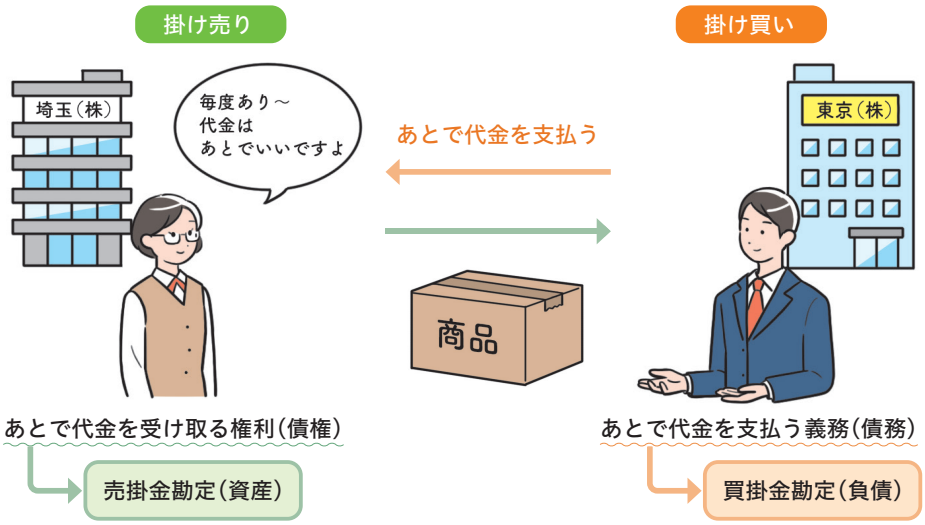
3 掛けによる売買

1 掛け取引

仕入れ代金を「あとで支払う」，売上げ代金を「あとで受け取る」取引を，**掛け**★による商品売買といいます。

掛けによる売買が行われると，取引先との間に**あとで商品の代金を受け取る権利（債権）**と**あとで商品の代金を支払う義務（債務）**が生じます。この債権と債務は，**売掛金勘定**（資産）・**買掛金勘定**（負債）で処理します。

掛けによる売買



⊕ 売掛金（資産） ⊖		⊖ 買掛金（負債） ⊕	
掛売上高	回収額	支払額	掛仕入高

★掛け
掛けとは，日常用語の「ツケ」と同じ意味です。継続反復的に商品売買取引を行う場合，その場で現金等で決済すると効率的ではないため，あとでまとめて代金を決済することが望まれます。そこで行われるのが掛け取引で，売掛金勘定や買掛金勘定を用いて記録します。

2　掛けによる仕入れ

（1）　商品を掛けで仕入れたとき

商品を掛けで仕入れたときは，**あとで商品の代金を支払う義務（債務）が生じる**ので，**買掛金勘定**（負債）の**貸方**に記入します。

例　題 03　商品を掛けで仕入れたとき

4月3日，埼玉㈱から商品300円を仕入れ，代金は掛けとした。

仕　訳

4 / 3	（仕　　入）	300	（買　掛　金）	300

転　記

⊕　仕　入（費用）⊖		⊖　買　掛　金（負債）⊕	
4 / 3 買 掛 金　300			4 / 3 仕　入　300

（2）　買掛金を支払ったとき

後日，買掛金を支払ったときは，**商品の代金を支払う義務（債務）が消滅する**ので**買掛金勘定**の**借方**に記入します。

例　題 04　買掛金を支払ったとき　（例題 03 の続き）

4月10日，埼玉㈱に買掛金250円を現金で支払った。

仕　訳

4 /10	（買　掛　金）	250	（現　　金）	250

転　記

⊕　現　金（資産）⊖		⊖　買　掛　金（負債）⊕	
××　×××	4 /10 買 掛 金　250	4 /10 現　金　250	4 / 3 仕　入　300

3　掛けによる売上げ

（1）　商品を掛けで売り上げたとき

商品を掛けで売り上げたときは，**あとで商品の代金を受け取る権利（債権）が生じる**ので，**売掛金勘定**（資産）の**借方**に記入します。

例　題 05　商品を掛けで売り上げたとき

4月3日，東京㈱に商品を300円で売り上げ，代金は掛けとした。

仕　訳

4 / 3	（売　掛　金）	300	（売　　上）	300

転　記

⊕　売　掛　金（資産）⊖		⊖　売　上（収益）⊕	
4 / 3 売　上　300			4 / 3 売 掛 金　300

（2） 売掛金を回収したとき

後日，売掛金を回収したときは，**商品の代金を受け取る権利（債権）が消滅する**ので**売掛金勘定**の**貸方**に記入します。

例題 06 売掛金を回収したとき （例題 05 の続き）

4月10日，東京㈱から売掛金250円を現金で回収した。

仕訳

4/10（現　　金）　250　（売　掛　金）　250

転記

⊕ 売　掛　金（資産） ⊖

4/3 売　上	300	4/10 現　金	250

⊕ 現　金（資産） ⊖

4/10 売掛金	250		

確認問題 06

解答解説 → P286

次の一連の取引について仕訳しなさい。なお，仕訳に用いる勘定科目は次の中から選ぶこと。

勘定科目　現金　売掛金　買掛金　売上　仕入

1．兵庫㈱から商品2,000円を仕入れ，代金は掛けとした。
2．愛知㈱に上記1．の商品を2,700円で販売し，代金は掛けとした。
3．兵庫㈱に買掛金1,600円を現金で支払った。
4．愛知㈱から売掛金2,500円を現金で回収した。

4 売掛金・買掛金に関する補助簿（テーマ05で学習）

掛け取引においては，売掛金勘定・買掛金勘定を用いて，あとで受け取る権利（債権）とあとで支払う義務（債務）を主要簿に記録すると同時に，**相手先別の売掛金・買掛金の増減や残高の管理**を行うために，補助簿として**売掛金元帳**（うりかけきんもとちょう）・**買掛金元帳**（かいかけきんもとちょう）を設けて記帳します。

Supplement

人名勘定

取引先ごとの債権・債務の状態を把握するために，取引先の企業名をつけた勘定を設けて，売掛金・買掛金の増減を記録することがあります。この企業名をつけた勘定を**人名勘定**（じんめいかんじょう）といいます。

⊕ ○ ○ ㈱ ⊖		⊖ × × ㈱ ⊕	
掛売上高	回収額	支払額	掛仕入高

例題 掛けによる仕入れ

（1） 商品を掛けで仕入れたとき

4月3日，埼玉㈱から商品300円を仕入れ，代金は掛けとした。

仕訳

4/3（仕入）300　（埼玉㈱）300

（2） 買掛金を支払ったとき

4月10日，埼玉㈱に買掛金250円を現金で支払った。

仕訳

4/10（埼玉㈱）250　（現金）250

転記

埼玉㈱	
4/10 現金 250	4/3 仕入 300

例題 掛けによる売上げ

（1） 商品を売り上げたとき

4月3日，東京㈱に商品を300円で売り上げ，代金は掛けとした。

仕訳

4/3（東京㈱）300　（売上）300

（2） 売掛金を回収したとき

4月10日，東京㈱から売掛金250円を現金で回収した。

仕訳

4/10（現金）250　（東京㈱）250

転記

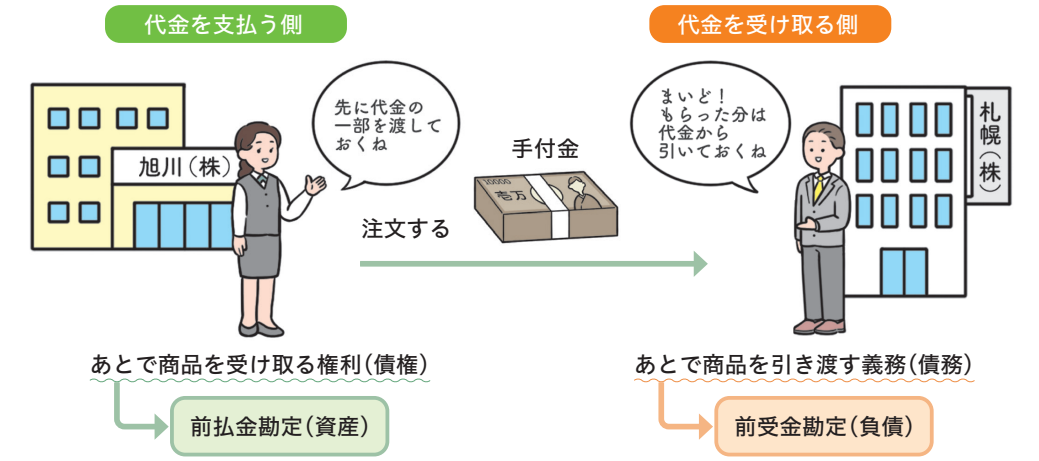
東京㈱	
4/3 売上 300	4/10 現金 250

4 手付金や内金の処理

1 商品代金の前払いと前受け

仕入側が，商品の引き渡しを受ける前に，前もって商品代金の一部を手付金（てつけきん）として支払ったときは，**あとで商品を受け取る権利（債権）**が生じるので，この権利（債権）を**前払金勘定**（まえばらいきん）（資産）で処理します。また，売上側が，商品を引き渡す前に，前もって商品代金の一部を手付金として受け取ったときは，**あとで商品を引き渡す義務（債務）**が生じるので，この義務（債務）を**前受金勘定**（まえうけきん）（負債）で処理します。

前払金と前受金



⊕ 前払金 資産 ⊖	
仕入代金の前払額	仕入代金に充当

⊖ 前受金 負債 ⊕	
売上代金に充当	売上代金の前受額

2 手付金の支払い（仕入側の処理）

（1） 手付金を支払ったとき

あとで商品を受け取る権利（債権）が生じるので，資産の増加として**前払金勘定**（資産）の**借方**に記入します。

例題 07 手付金を支払ったとき

12月5日，旭川㈱は札幌㈱に商品200円を注文し，手付金として40円を現金で支払った。

仕訳

12/5	（前払金）*	40	（現金）	40

＊ 手付金を支払ったときは，前渡金勘定（資産）を用いることもあります。

転　記

⊕ 現　金（資産）		⊖
××　×××	12/5 前 払 金　40	

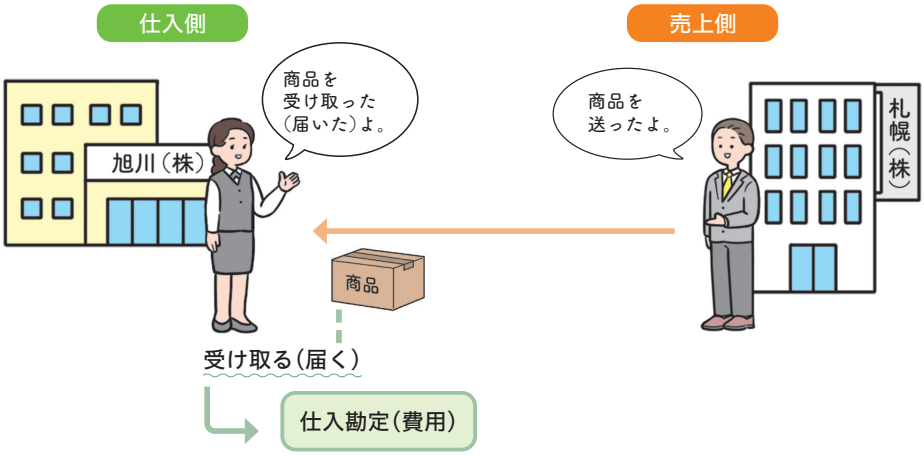
⊕ 前　払　金（資産）		⊖
12/5 現　金　40		

商品を注文した時点では，仕入勘定（費用）を計上しません。仕入勘定（費用）を計上するのは，商品を受け取ったときです。

（2） 商品を受け取ったとき

前もって代金の一部（または全部）を支払っていた場合，商品を受け取ることで，**商品を受け取る権利（債権）が消滅する**ため，**前払金勘定**の**貸方**に記入します。その際，**未払分**があるときは，これを**買掛金勘定**の**貸方**に記入します。

仕入れ



例　題 08　商品を受け取ったとき　（例題 07 の続き）

12月20日，旭川㈱は札幌㈱から商品200円を受け取り，代金のうち40円は注文時に支払った手付金と相殺し，残額は掛けとした。

仕　訳

12/20（仕　入）	200	（前　払　金）	40
		（買　掛　金）	160

転　記

⊕ 現　金（資産）		⊖
××　×××	12/5 前 払 金　40	

⊖ 買　掛　金（負債）		⊕
	12/20 仕　入　160	

⊕ 前　払　金（資産）		⊖
12/5 現　金　40	12/20 仕　入　40	

⊕ 仕入（費用） ⊖	
12/20 諸口（注） 200	

（注）相手科目が2つ以上あるので，相手科目の代わりに「諸口」と記入します。

3 手付金の受け取り（売上側の処理）

（1） 手付金を受け取ったとき

あとで商品を引き渡す義務（債務）が生じるので，負債の増加として，**前受金勘定**（負債）の**貸方**に記入します。

例題 09 手付金を受け取ったとき

12月5日，札幌㈱は旭川㈱から商品200円の注文を受け，手付金として現金40円を受け取った。

仕訳

12/5（現金） 40 （前受金） 40

転記

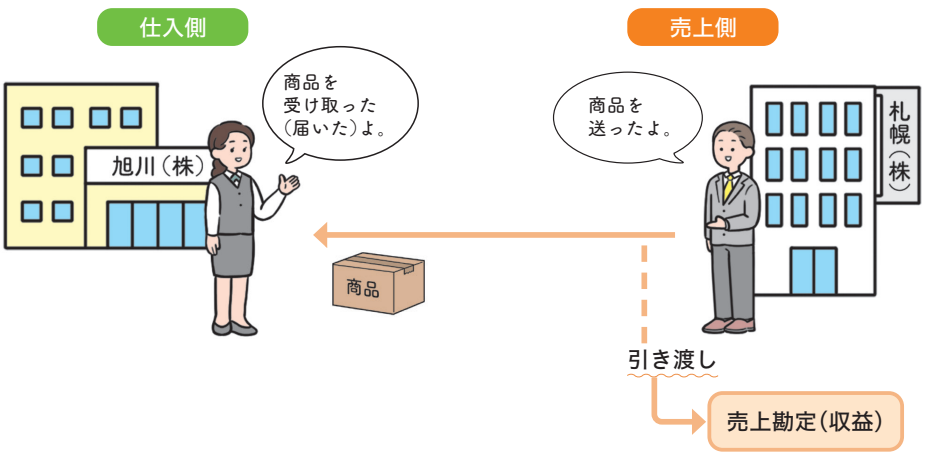
⊕ 現金（資産） ⊖		⊖ 前受金（負債） ⊕	
12/5 前受金 40			12/5 現金 40

商品の注文を受けた時点では，売上勘定（収益）を計上しません。売上勘定（収益）を計上するのは，商品を引き渡したときです。

（2） 商品を引き渡したとき

前もって代金の一部（または全部）を受け取っていた場合，商品を引き渡すことで，**商品を引き渡す義務（債務）が消滅する**ため，**前受金勘定**の**借方**に記入します。その際，**未収分**があるときは，これを**売掛金勘定**の**借方**に記入します。

売上げ



例題 10　商品を引き渡したとき　（例題 09 の続き）

12月20日，札幌㈱は旭川㈱に商品200円を引き渡し，代金のうち40円は注文時に受け取った手付金と相殺し，残額は掛けとした。

仕訳

12/20	（前受金）	40	（売上）	200
	（売掛金）	160		

転記

⊕ 現金（資産） ⊖

12/5	前受金	40	

⊖ 前受金（負債） ⊕

12/20	売上	40	12/5 現金 40

⊕ 売掛金（資産） ⊖

12/20	売上	160	

⊖ 売上（収益） ⊕

		12/20	諸口 200

確認問題 07

解答解説 → P287

次の取引について仕訳しなさい。なお，仕訳に用いる勘定科目は次の中から選ぶこと。

勘定科目　現金　売掛金　前払金　買掛金　前受金　売上　仕入

1．岡山㈱は広島㈱に商品3,000円を注文し，手付金600円を現金で支払った。
2．岡山㈱は広島㈱から上記1．の商品を受け取り，代金のうち600円は注文時に支払った手付金と相殺し，残額は掛けとした。
3．広島㈱は岡山㈱より商品3,000円の注文を受け，手付金600円を現金で受け取った。
4．広島㈱は岡山㈱に対し上記3．の商品を発送し，代金のうち600円は注文時に受け取った手付金と相殺し，残額は掛けとした。

Supplement
「注文」と手付金・内金

商品売買では，「注文」と称して，商品を仕入れたり引き渡したりする契約を結びます。簿記では，この「注文」自体については，５要素の増減がない（取引ではない）ため仕訳をしませんが，注文時（**商品の引き渡しが行われる前**）に，代金の一部として手付金・内金などの受け払いを行った際には，５要素の増減があるため，取引として仕訳をします。

手付金は，買主または売主が一方的に契約を解除できるものとして支払われる性格があります。一方，内金は，契約の解除は行わないことを前提に，契約の証拠として支払われる性格があります。

5 商品券

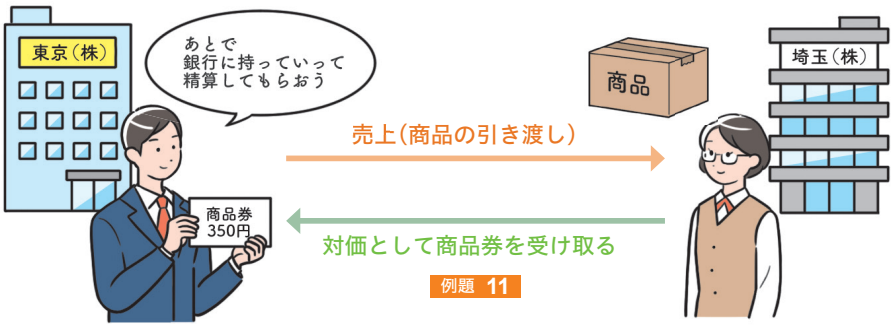
1 商品券とは

世の中には，大手百貨店や信販会社，自治体などが発行する商品券やビール券，CD券などの，いわゆる金券が流通しています。消費者は，この商品券を買い物ができる価値をもつものとして現金と同じように使用できますが，ここでは，企業が商品を売り上げたときに，代金として商品券を受け取った場合の処理を学習します。

2 商品を売り上げて商品券を受け取ったとき

商品を売り上げた際に，代金として商品券を受け取ったときは，その商品券を月間に何回か設けられている所定の日に取引銀行に持ち込みます。銀行はその商品券の金額を発行した企業に請求し，払い込まれた金額を商品を売り上げた企業に支払います。したがって，受け取った商品券は払い戻し金が入金されるまで，債権として**受取商品券勘定**（資産）の**借方**に記入します。

商品券の受け取り



⊕ 受取商品券 資産 ⊖

受取額	払戻額

例 題 11　商品券を受け取ったとき

12月10日，商品300円を販売し，信販会社○○が発行した商品券350円を受け取り，おつり50円は現金で支払った。

仕 訳

12/10	（受 取 商 品 券）	350	（売　　上）	300
			（現　　金）	50

転 記

⊕　現　金（資産）　⊖

××	×××	12/10 受取商品券	50

⊖　売　上（収益）　⊕

		12/10 受取商品券	300

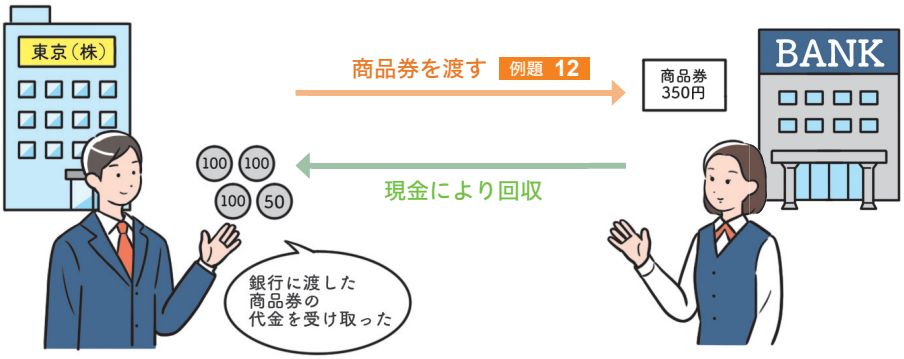
⊕　受 取 商 品 券（資産）　⊖

12/10	諸　口	350	

3　商品券を精算したとき

受取商品券は，所定の日に取引銀行に持参し，取引銀行を通じて代金を回収します。したがって，債権が消滅するため**受取商品券勘定**の**貸方**に記入します。

商品券の精算



例題 12　商品券を精算したとき　（例題 11 の続き）

12月20日，商品券の精算のため，取引銀行を通じて当社が保有している商品券350円を請求し，現金を受け取った。

仕訳

12/20（現　　金）　350　（受取商品券）　350

転記

⊕ 現　金（資産） ⊖

××	×××	12/10 受取商品券	50
12/20 受取商品券	350		

⊖ 売　上（収益） ⊕

		12/10 受取商品券	300

⊕ 受取商品券（資産） ⊖

12/10 諸　口	350	12/20 現　金	350

確認問題 08

解答解説 → P287

次の一連の取引について仕訳しなさい。なお，仕訳に用いる勘定科目は次の中から選ぶこと。

勘定科目　現金　売掛金　受取商品券　売上

1．商品8,000円を販売し，代金は信販会社〇〇発行の商品券5,000円を受け取り，残金は月末に受け取ることとした。

2．商品販売時に受け取った信販会社〇〇発行の商品券5,000円を取引銀行を通じて請求し，現金を受け取った。

ここが POINT

①**「掛けとした」**という表現は，仕入側は**「商品代金をあとで支払うことにした」**と読み，売上側は**「商品代金をあとで受け取ることにした」**と読む。その他，「月末にまとめて」「商品代金の分割払い」などの表現もあるが，いずれも**「あとで」**という意味として読みとる。

②掛け取引は，信用のある相手先との間で行われる取引で，売掛金勘定・買掛金勘定を用いる仕訳以外に，**相手先別の増減や残高の管理が重要**である。

③簿記では，**注文についてそれ自体の仕訳は行わない**。基本的に，「仕入＝商品の受け入れ」「売上＝商品の引き渡し」を意味する。

THEME 05

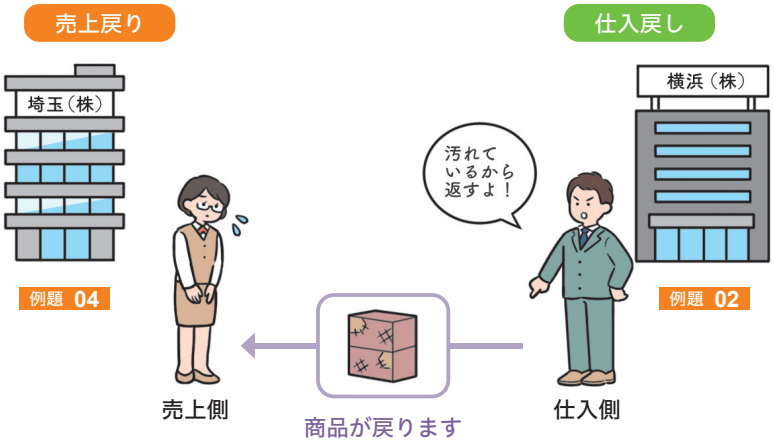
商品売買Ⅱ

1 返　品

1 返品とは

商品の品違い，傷，汚れなどにより，商品を送り返したり，送り返されることを**返品**といいます。なお，仕入れた商品を送り返すことを**仕入戻し**，売り上げた商品が送り返されることを**売上戻り**といいます。

返品



返品が行われたときは，商品を仕入れた，または売り上げた**取引を取り消す処理**を行います。

取り消しの処理は，仕入れや売上げが行われたときの仕訳を，**借方と貸方を逆にする**ことで行います。これを**貸借逆仕訳**といいます。

Supplement

純仕入高と純売上高

仕入勘定と売上勘定には次のような内容を記入します。このとき，仕入れた金額（仕入勘定の借方合計）を総仕入高，返品控除後の仕入勘定の残高を純仕入高といいます。また，売り上げた金額（売上勘定の貸方合計）を総売上高，返品控除後の売上勘定の残高を純売上高といいます。

仕入		売上	
総仕入高	仕入戻し高	売上戻り高	総売上高
	純仕入高	純売上高	

2 仕入側の処理

（1） 商品を仕入れたとき（テーマ04で学習済み）

例題 01 商品を仕入れたとき

5月5日，埼玉㈱より商品300円を仕入れ，代金は掛けとした。

仕訳

5/5（仕入）300　（買掛金）300

転記

⊕ 仕入（費用） ⊖		⊖ 買掛金（負債） ⊕	
5/5 買掛金 300			5/5 仕入 300

（2） 仕入戻し（仕入返品）

仕入れた商品を返品したときは，仕入取引をなかったことにするため，**取り消しの処理**として，返品した金額を用いて，**商品を仕入れた際に行った仕訳の貸借逆仕訳**をします。

例題 02 仕入戻し（仕入返品）　（例題 01 の続き）

5月7日，5月5日に埼玉㈱より掛けで仕入れた商品300円のうち，100円を品違いのため返品した。

仕訳

5/7（買掛金）100　（仕入）100

転記

⊕ 仕入（費用） ⊖		⊖ 買掛金（負債） ⊕	
5/5 買掛金 300	5/7 買掛金 100	5/7 仕入 100	5/5 仕入 300

貸借逆仕訳は次のようなイメージで行います。

商品を仕入れたとき 例題 01：（仕入）×××　（買掛金）×××

仕入戻し（仕入返品）例題 02：（買掛金）×××　（仕入）×××

3　売上側の処理

（1）　商品を売り上げたとき（テーマ04で学習済み）

例　題 03　商品を売り上げたとき

5月5日，横浜㈱に商品300円を売り上げ，代金は掛けとした。

仕　訳

5 / 5（売　掛　金）　300　（売　上）　300

転　記

⊕　売　掛　金（資産）　⊖

5 / 5 売　上　300	

⊖　売　上（収益）　⊕

	5 / 5 売 掛 金　300

（2）　売上戻り（売上返品）

売り上げた商品が返品されたときは，売上取引をなかったことにするため，**取り消しの処理**として，返品された金額を用いて，**商品を売り上げた際に行った仕訳の貸借逆仕訳**をします。

例　題 04　売上戻り（売上返品）　（例題 03 の続き）

5月7日，5月5日に横浜㈱に掛けで売り上げた商品300円のうち，100円が品違いのため返品された。

仕　訳

5 / 7（売　上）　100　（売　掛　金）　100

転　記

⊕　売　掛　金（資産）　⊖

5 / 5 売　上　300	5 / 7 売　上　100

⊖　売　上（収益）　⊕

5 / 7 売 掛 金　100	5 / 5 売 掛 金　300

貸借逆仕訳は次のようなイメージで行います。

商品を売り上げたとき 例題 03：(売　掛　金)　×××　(売　上)　×××

売上戻り（売上返品）例題 04：(売　上)　×××　(売　掛　金)　×××

確認問題 09　解答解説 → P287

次の取引について仕訳しなさい。なお，仕訳に用いる勘定科目は次の中から選ぶこと。

勘定科目　売掛金　買掛金　売上　仕入

1．長野㈱から掛けで仕入れた商品のうち，1,000円を品違いのため返品した。

2．富山㈱に掛けで販売した商品のうち，1,000円が品違いのため返品された。

ここがPOINT

返品したときは，返品した金額を用いて，**仕入れたときに行った仕訳の貸借逆仕訳**を行う。

返品されたときは，返品された金額を用いて，**売り上げたときに行った仕訳の貸借逆仕訳**を行う。

2 商品の移動にかかる費用

1 諸掛り

商品を移動する際にかかる費用を**諸掛り**（しょがか）といい，商品を仕入れるときの費用を**仕入諸掛り**（**引取費用**など），商品を売り渡すときの費用を**売上諸掛り**（**発送費用**など）といいます。このことを付随費用といいます。

具体的には，商品を安全に運ぶための梱包代や，運送代，商品にかける保険料などが該当します。

2 諸掛りの処理

（1） 仕入諸掛りを支払ったとき

仕入諸掛りは商品の代金に加算して取得原価とするため，**仕入勘定**（費用）で処理します。

取得原価 ＝ 本体の代金（購入代価） ＋ 仕入諸掛り（付随費用）

例題05 仕入諸掛りを支払ったとき

6月5日，埼玉㈱から商品300円を仕入れ，代金は掛けとした。なお，引取費用20円を現金で支払った。

仕訳

6/5	（仕　入）＊	320	（買掛金）	300
			（現　金）	20

＊ 商品本体の代金300円＋引取費用20円＝取得原価320円

転記

⊕ 現金（資産） ⊖			⊖ 買掛金（負債） ⊕		
××	×××	6/5 仕入 20			6/5 仕入 300

⊕ 仕入（費用） ⊖		
6/5 諸口	320	

（2） 売上諸掛りを支払ったとき

売上諸掛りは，費用として処理するため，**発送費勘定**（費用）で処理します。

なお，支払運賃勘定など，他の勘定科目を用いて処理することもあります。

例 題 06 売上諸掛りを支払ったとき

6月10日，商品450円に発送費用50円を加えた合計額で横浜㈱へ販売し，掛けおよび売上とした。また，同時に配送業者へ商品を引き渡し，発送費用50円は現金で支払った。

仕 訳

6/10	（売掛金）*	500	（売上）*	500
	（発送費）	50	（現金）	50

＊ 日商簿記3級において，発送費用50円は，特に指示がない限り，売掛金と売上に含めます。
商品の売価450円＋発送費用50円＝500円

転 記

⊕ 現金（資産） ⊖

××	×××	6/10 発送費	50

⊖ 売上（収益） ⊕

		6/10 売掛金	500

⊕ 売掛金（資産） ⊖

6/10 売上	500		

⊕ 発送費（費用） ⊖

6/10 現金	50		

確認問題 10

解答解説 → P287

次の取引について仕訳しなさい。なお，仕訳に用いる勘定科目は次の中から選ぶこと。

勘定科目　現金　売掛金　買掛金　売上　仕入　発送費

1．兵庫㈱から商品2,000円を仕入れ，代金は掛けとした。なお，引取費用650円を現金で支払った。

2．商品3,500円に発送費用750円を加えた合計額で愛知㈱へ販売し，掛けおよび売上とした。また，同時に配送業者へ商品を引き渡し，発送費用750円は現金で支払った。

Supplement

発送費用（当社負担）の取り扱い

発送費用について，当社が負担する旨の指示があった場合は売掛金と売上に含めず，**発送費勘定**（費用）で処理するのみとします。

例　題　発送費用（当社負担）の取り扱い

6月10日，横浜㈱に商品450円を売り上げ，代金は掛けとした。また，同時に配送業者へ商品を引き渡し，発送費用50円（当社負担）は現金で支払った。

仕　訳

6/10	（売　掛　金）	450	（売　上）	450
	（発　送　費）	50	（現　金）	50

3 保管費

商品などを得意先に納入するまでの間，一時的に倉庫や保管スペースを借りて保管する場合があります。この利用に応じてかかる費用を保管費といい，**保管費勘定**（費用）で処理します。

保管費には，倉庫管理システムを活用する場合のシステム料や，倉庫のスペースを借りるための賃料，搬入にかかる入庫料，搬出にかかる出庫料等が含まれます。

⊕　保　管　費　費用　⊖

商品の保管等にかかった金額	

例　題 07　保管費の支払い

1月25日，商品の保管を依頼していた大宮物流㈱に対し，保管にかかった50円を現金で支払った。

仕　訳

1/25	（保　管　費）*	50	（現　金）	50

＊　問題の指示により保管費勘定に代えて，保管料勘定や倉庫料勘定を用いることもあります。

転　記

⊕　現　金（資産）　⊖

	××　×××	1/25 保管費	50

⊕　保　管　費（費用）　⊖

1/25 現金	50		

ここが POINT

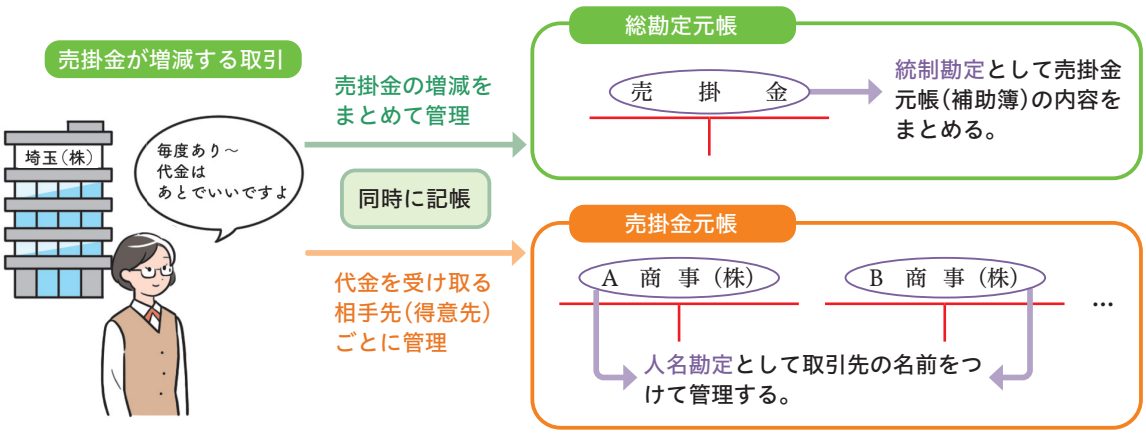
①仕入諸掛りは，**仕入勘定（費用）**に含める。
②売上諸掛りは，**発送費（費用）**で処理する。

4 売掛金元帳・買掛金元帳

1 売掛金元帳（得意先元帳）

売掛金元帳は，**売掛金の増減取引について，相手先別の増減明細を記録する補助元帳（補助簿）**です。売掛金のある相手先を「得意先」とよぶことから，得意先元帳ともいいます。

売掛金元帳



売掛金元帳は，売掛金勘定の内容を相手先（得意先）ごとに分けたものなので，売掛金勘定の借方合計・貸方合計・残高と，すべての取引先の売掛金元帳の借方合計・貸方合計・残高の金額は一致します。このことにより記帳ミスなどのチェックができます。

例題 08　売掛金元帳の記入

次の取引を仕訳し，総勘定元帳と売掛金元帳の記入を示しなさい。

2月4日　A商事㈱に商品を450円で売り上げ，代金は掛けとした。
2月9日　B商事㈱に商品を500円で売り上げ，代金は掛けとした。
2月11日　A商事㈱の売掛金250円について，現金で回収した。
2月20日　B商事㈱の売掛金100円について，現金で回収した。

仕訳

2/4	（売掛金）A商事㈱	450	（売上）	450
9	（売掛金）B商事㈱	500	（売上）	500
11	（現金）	250	（売掛金）A商事㈱	250
20	（現金）	100	（売掛金）B商事㈱	100

転記

〈総勘定元帳（主要簿）〉

⊕ 現金（資産） ⊖			⊖ 売上（収益） ⊕		
2/11 売掛金	250			2/4 売掛金	450
20 売掛金	100			9 売掛金	500

⊕ 売掛金（資産） ⊖					
2/4 売上	450		2/11 現金	250	
9 売上	500		20 現金	100	

〈売掛金元帳（補助簿）〉

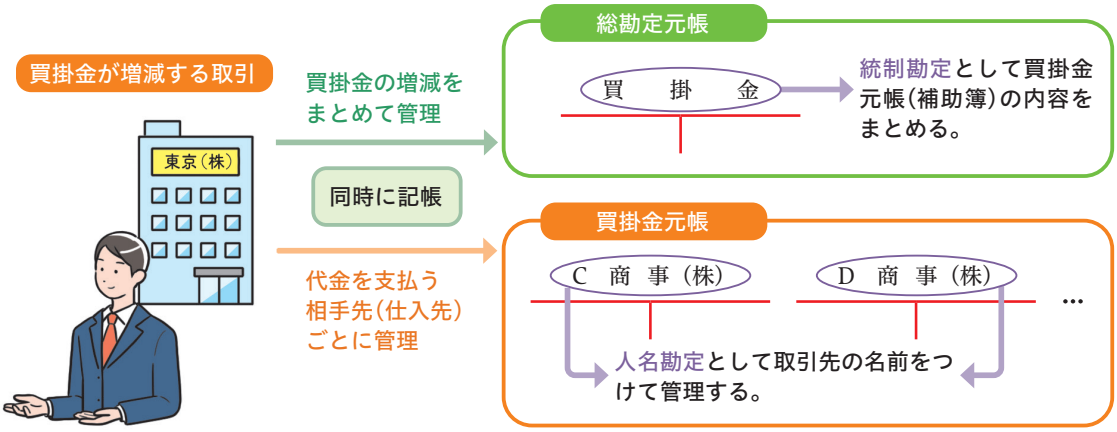
⊕ A商事㈱ ⊖			⊕ B商事㈱ ⊖		
2/4 売上	450	2/11 現金	250	2/9 売上	500	2/20 現金	100

売掛金勘定と売掛金元帳（A商事㈱勘定とB商事㈱勘定）を同時に記入することにより，売掛金勘定残高と相手先ごとの勘定残高を把握することができます。このように売掛金勘定は売掛金元帳を1つにまとめて統制することから，**統制勘定**とよばれています。

2　買掛金元帳（仕入先元帳）

買掛金元帳は，**買掛金の増減取引について，相手先別の増減明細を記録する補助元帳（補助簿）**です。買掛金のある相手先を「仕入先」とよぶことから，仕入先元帳ともいいます。

買掛金元帳



例　題 09　買掛金元帳の記入

次の取引を仕訳し，総勘定元帳と買掛金元帳の記入を示しなさい。

3月5日　C商事㈱より商品300円を仕入れ，代金は掛けとした。
3月7日　D商事㈱より商品600円を仕入れ，代金は掛けとした。
3月17日　C商事㈱の買掛金200円を現金で支払った。
3月22日　D商事㈱の買掛金350円を現金で支払った。

仕　訳

3／5	（仕　　入）	300	（買　掛　金）C商事㈱	300
7	（仕　　入）	600	（買　掛　金）D商事㈱	600
17	（買　掛　金）C商事㈱	200	（現　　金）	200
22	（買　掛　金）D商事㈱	350	（現　　金）	350

転　記

〈総勘定元帳（主要簿）〉

⊕ 現　金（資産）		⊖
	3/17 買掛金	200
	22 買掛金	350

⊖ 買　掛　金（負債）		⊕
3/17 現金	200	3/5 仕入	300
22 現金	350	7 仕入	600

⊕ 仕　入（費用）		⊖
3/5 買掛金	300	
7 買掛金	600	

〈買掛金元帳（補助簿）〉

⊖ C商事㈱		⊕
3/17 現金	200	3/5 仕入	300

⊖ D商事㈱		⊕
3/22 現金	350	3/7 仕入	600

買掛金勘定と買掛金元帳（C商事㈱勘定とD商事㈱勘定）を同時に記入することにより，買掛金勘定残高と相手先ごとの勘定残高を把握することができます。売掛金勘定と同様，買掛金勘定は買掛金元帳の統制勘定です。

Supplement

売掛金元帳と買掛金元帳の形式例

例題ではT字形式（簡略式）で示しましたが，売掛金元帳・買掛金元帳の相手先別の記録は，「標準式」や「残高式」などの形式があります。ここでは，「残高式」の記入例を示します。

1　売掛金元帳（得意先元帳）

売　掛　金　元　帳
横　浜　㈱

×1年		摘　要	借　方	貸　方	借／貸	残　高
5	1	前月繰越	400		借	400
	8	掛け売上	100		〃	500
	16	返品		30	〃	470
	25	掛け売上	360		〃	830

増加　減少　残高が借方か貸方かを示します。

2　買掛金元帳（仕入先元帳）

買　掛　金　元　帳
埼　玉　㈱

×1年		摘　　要	借　方	貸　方	借／貸	残　高
5	1	前　月　繰　越		200	貸	200
	6	掛　け　仕　入		120	〃	320
	10	返　　品	80		〃	240
	15	掛　け　仕　入		300	〃	540

減少

増加

残高が借方か貸方かを示します。

5　商品有高帳

商品有高帳（しょうひんありだかちょう）は，商品の受け入れや払い出しのつど，**商品の種類ごとに，数量・単価・金額**を記録して，**原価で**商品の増減および残高の管理を行う補助元帳です。

取引例（仕訳）

仕　入：5／7　（仕　　入）3,600　（買　掛　金）3,600

売　上：5／19　（売　掛　金）4,500　（売　　上）4,500(注)

商品名を記入し，商品の種類ごとに管理します。

商品有高帳への記入

商　品　有　高　帳
A　　品

×1年		摘　要	受入 数量	受入 単価	受入 金額	払出 数量	払出 単価	払出 金額	残高 数量	残高 単価	残高 金額
5	1	前　月　繰　越	5	240	1,200				5	240	1,200
	7	仕　　入	15	240	3,600				20	240	4,800
	19	売　　上				10	240	2,400(注)	10	240	2,400

取引の要約を記入します。

月初の在庫（前月繰越）および商品を仕入れたときや売上戻りがあったときは，**受入欄に原価で**記入します。

商品を売り上げたときには，**払出欄に原価で**記入します(注)。この売り上げた商品の原価を**売上原価**といいます。なお，仕入戻しがあったときは払出欄に記入します。

残高欄にその日の在庫金額（残高）を記入します。

（注）払出欄に記入する金額は売上高（売価）ではなく，原価を記入します。
Ａ品の月初の在庫（前月繰越）の単価は＠240円，５月７日に仕入れた商品も単価は同じ＠240円なので，５月７日時点の在庫は「全部で20個，単価はすべて＠240円」です。５月19日には20個のうちの10個を売り上げたので，払出金額は2,400円（＝10個×＠240円）と計算します。

1　同じ商品を異なる単価で仕入れたときの払出単価の計算方法

同じ商品を異なる単価で仕入れたときの払出単価の計算について，日商簿記３級では，**先入先出法**と**移動平均法**の２つの方法を学習します。

（1）　先入先出法

先に受け入れた商品から順に払い出すと仮定して，払出単価を決定する方法です。したがって，単価の異なる商品を受け入れたときに，区別する必要があります。

（2）　移動平均法

単価の異なる商品を受け入れたつど，次の算式で平均単価を計算し，それを次の払出単価とする方法です。

$$\frac{\text{仕入前の残高金額} + \text{仕入（受入）金額}}{\text{仕入前の残高数量} + \text{仕入（受入）数量}} = \text{平均単価}$$

2　商品有高帳の記入方法

払出単価の計算方法によって，商品有高帳の記入方法が異なります。

例　題 10　商品有高帳の記入

当月におけるA品の仕入れおよび売上げは次のとおりであった。(1)先入先出法および(2)移動平均法により商品有高帳に記入し，月末の締め切りを行いなさい。

5/1　前月繰越　5個　@200円
5/7　仕　　入　15個　@240円
5/19　売　　上　10個　@450円（売価）
5/22　仕　　入　10個　@200円
5/28　売　　上　14個　@460円（売価）

(1)　先入先出法

商品有高帳
（先入先出法）　A　品

日付		摘要	受入 数量	受入 単価	受入 金額	払出 数量	払出 単価	払出 金額	残高 数量	残高 単価	残高 金額	
5	1	前月繰越	❶ 5	200	1,000				❶ 5	200	1,000	
	7	仕　入	15	240	3,600				❷ 5	200	1,000	← 前月繰越分
									15	240	3,600	← 5/7受入分
	19	売　上				❸ 5	200	1,000				
						5	240	1,200	10	240	2,400	
	22	仕　入	10	200	2,000				10	240	2,400	← 5/19残高
									10	200	2,000	← 5/22受入分
	28	売　上				10	240	2,400				
						4	200	800	6	200	1,200	
	31	次月繰越				❹ 6	200	1,200	← 移記する			
			❺ 30	——	6,600	❺ 30	——	6,600				
6	1	前月繰越	6	200	1,200				6	200	1,200	

❶　5月1日の受入欄に，4月(前月)の在庫を受け入れたものとして記入し，同時に残高欄にも記入します。
❷　7日は，前月繰越とは単価の異なる商品を受け入れたので，残高欄へ受入順に2行に分けて記入することで区別します。
❸　19日の売上数量は10個なので，まず前月繰越分の5個を先に払い出し，次に7日の受入れ分を5個払い出したと仮定して記入します。
❹　払出欄に月末の残高(数量，単価，金額)を記入します。
❺　受入欄の合計数量と合計額，払出欄の合計数量と合計額が一致することを確認して，商品有高帳を締め切ります。

※　7日の残高欄，19日の払出欄，22日の残高欄，28日の払出欄の記入のように，2行以上使用する場合「{(中カッコ)」でくくります。

(2) 移動平均法

商品有高帳

A品

(移動平均法)

日付		摘要	受入			払出			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
5	1	前月繰越	5	200	1,000				5	200	1,000
	7	仕入	15	240	3,600				20	❶ 230	4,600
	19	売上				10	230	2,300	10	230	2,300
	22	仕入	10	200	2,000				20	❷ 215	4,300
	28	売上				14	215	3,010	6	215	1,290
	31	次月繰越				6	215	1,290			
			30	——	6,600	30	——	6,600			
6	1	前月繰越	6	215	1,290				6	215	1,290

❶ 7日は，前月繰越と単価の異なる商品を受け入れたので，次の算式で平均単価を計算し，この平均単価で19日の払出金額を計算します。

$$\frac{1{,}000円 + 3{,}600円}{5個 + 15個} = @230円$$

❷ 22日は，仕入前の残高と単価の異なる商品を受け入れたので，次の算式で平均単価を計算し，この平均単価で28日の払出金額を計算します。

$$\frac{2{,}300円 + 2{,}000円}{10個 + 10個} = @215円$$

確認問題 11

解答解説 → P288

次の資料によって，⑴先入先出法と⑵移動平均法による商品有高帳の記入を示しなさい。なお，締め切りは不要である。

4月 1 日	前月繰越	紳士靴10足	@320円	3,200円
4月 8 日	仕　　入	紳士靴20足	@350円	7,000円
4月16日	売　　上	紳士靴25足	@600円（売価）	15,000円
4月22日	仕　　入	紳士靴10足	@310円	3,100円
4月29日	売　　上	紳士靴10足	@620円（売価）	6,200円

⑴　先入先出法

商品有高帳
紳士靴

×1年		摘要	受入			払出			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
4	1	前月繰越									

⑵　移動平均法

商品有高帳
紳士靴

×1年		摘要	受入			払出			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
4	1	前月繰越									

Supplement

売上原価・売上総利益の計算

商品有高帳を作成することで，一定期間における仕入原価と払出原価が明らかとなり，決算に必要な期末商品棚卸高（期末在庫）と売上原価に関する資料を入手することができます。また，この資料より，売上総利益（商品売買益）を計算することができます。

例題 10 (1)の先入先出法による商品有高帳の記入をもとに，売上原価と売上総利益を計算すると下記のようになります。

商品有高帳

（先入先出法）　　A　品

日付		摘要	受入			払出			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
5	1	前月繰越	❶ 5	200	1,000				5	200	1,000
	7	仕入	15	240	3,600				5	200	1,000
									15	240	3,600
	19	売上	❷			5	200	1,000			
						5	240	1,200	10	240	2,400
	22	仕入	10	200	2,000				10	240	2,400
						❸			10	200	2,000
	28	売上				10	240	2,400			
						4	200	800	6	200	1,200
	31	次月繰越				❹ 6	200	1,200			
			30	—	6,600	30	—	6,600			
6	1	前月繰越	6	200	1,200				6	200	1,200

❶ 月初商品棚卸高	1,000円	売上高	10,940円*
❷ 当月商品仕入高	5,600円	❸ 売上原価	5,400円
計	6,600円	売上総利益	5,540円
❹ 月末商品棚卸高	1,200円		
❸ 売上原価	5,400円		

＊ 10個×@450円（5/19）＋14個×@460円（5/28）＝10,940円

確認問題 01

①（貸借対照表）　②（損益計算書）　③（利害関係者）　④（会 計 期 間）

確認問題 02

①（資　　産）　②（負　　債）　③（資　　本）　④（収　　益）　⑤（費　　用）

確認問題 03

1，4

確認問題 04

1．仕　訳

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4／1	現　　金	2,000	資　本　金	2,000
7／1	現　　金	1,500	借　入　金	1,500

2．転　記

現　　金（資産）

4／1 資本金	2,000		
7／1 借入金	1,500		

借　入　金（負債）

		7／1 現　金	1,500

資　本　金（資本）

		4／1 現　金	2,000

確認問題 05

1．	（仕　　入）	2,000	（現　　金）	2,000
2．	（現　　金）	2,700	（売　　上）	2,700

確認問題 06

1．	（仕　　入）	2,000	（買　掛　金）	2,000
2．	（売　掛　金）	2,700	（売　　上）	2,700
3．	（買　掛　金）	1,600	（現　　金）	1,600
4．	（現　　金）	2,500	（売　掛　金）	2,500

確認問題 07

1．	（前　払　金）	600	（現　　金）	600
2．	（仕　　入）	3,000	（前　払　金）	600
			（買　掛　金）	2,400
3．	（現　　金）	600	（前　受　金）	600
4．	（前　受　金）	600	（売　　上）	3,000
	（売　掛　金）	2,400		

確認問題 08

1．	（受取商品券）	5,000	（売　　上）	8,000
	（売　掛　金）	3,000		
2．	（現　　金）	5,000	（受取商品券）	5,000

確認問題 09

1．	（買　掛　金）	1,000	（仕　　入）	1,000
2．	（売　　上）	1,000	（売　掛　金）	1,000

確認問題 10

1．	（仕　　入）	2,650	（買　掛　金）	2,000
			（現　　金）	650
2．	（売　掛　金）	4,250	（売　　上）	4,250
	（発　送　費）	750	（現　　金）	750

確認問題 11

商品有高帳

(1) 先入先出法　　紳士靴

×1年		摘要	受入			払出			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
4	1	前月繰越	10	320	3,200				10	320	3,200
	8	仕入	20	350	7,000				10	320	3,200
									20	350	7,000
	16	売上				10	320	3,200			
						15	350	5,250	5	350	1,750
	22	仕入	10	310	3,100				5	350	1,750
									10	310	3,100
	29	売上				5	350	1,750			
						5	310	1,550	5	310	1,550

商品有高帳

(2) 移動平均法　　紳士靴

×1年		摘要	受入			払出			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
4	1	前月繰越	10	320	3,200				10	320	3,200
	8	仕入	20	350	7,000				30	340	10,200
	16	売上				25	340	8,500	5	340	1,700
	22	仕入	10	310	3,100				15	320	4,800
	29	売上				10	320	3,200	5	320	1,600

確認問題 12

1.	(現金)	150	(売掛金)	150
2.	(買掛金)	150	(現金)	150
3.	(現金)	100	(売掛金)	100

問題編

合格トレーニング

日商簿記 3 級

簿記の意義

問題 1-1 ★★★

理解度チェック □□□

次の文章のカッコ内に当てはまる適切な語句を下記の〈語群〉から選びなさい。

簿記の目的は，企業の（ ① ）状態と（ ② ）成績を明らかにすることである。

企業の一会計期間における（ ② ）成績を表す報告書を（ ③ ）といい，企業の期末における（ ① ）状態を表す報告書を（ ④ ）という。

〈語群〉

貸借対照表　損益計算書　財政　経営

解答欄

解答〈3〉ページ

①	②	③	④

問題 1-2 ★★★

理解度チェック □□□

次の文章のカッコ内に当てはまる適切な語句を下記の〈語群〉から選び，記入しなさい。

企業は継続して活動を行うため，通常1年間で区切って報告書を作成する。この区切られた期間を（ ① ）といい，株式会社の場合は，これを自由に定めることができる。

（ ① ）の開始の日を（ ② ），終わりの日を（ ③ ）といい，（ ② ）と（ ③ ）のあいだのことを（ ④ ）という。また，現在の（ ① ）を（ ⑤ ），ひとつ前の（ ① ）を（ ⑥ ），ひとつ後の（ ① ）を（ ⑦ ）または翌期という。

〈語群〉

会計期間　前期　当期　次期　期首　期中　期末

解答欄

解答〈3〉ページ

①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	

財務諸表と簿記の5要素

問題 2-1 ★★★

理解度チェック □□□

次に示す貸借対照表と損益計算書のカッコ内に当てはまる適切な語句（簿記の5要素）を下記の**〈語群〉**から選び，記入しなさい。

〈語群〉

資産　負債　資本　収益　費用

解答欄

解答〈4〉ページ

貸借対照表

( )	( )
	( ) (純資産)

損益計算書

( )	( )

問題 2-2　★★★

理解度チェック □□□

次の文章のカッコ内に当てはまる適切な語句を下記の**〈語群〉**から選び，記入しなさい。

簿記の手続きにおいては，記録や報告のために（　①　），（　②　），（　③　），（　④　），（　⑤　）の５つに分類される。これを簿記の５要素という。

（　①　）は，企業が活動のために所有するものをいい，現金や建物のような財貨と，貸付金のような債権（権利）がある。（　①　）は（　⑥　）の左側に記載する。

（　②　）は，借入金など，将来支払わなければならない債務（義務）をいい，（　⑥　）の右側に記載する。

（　③　）は，（　①　）から（　②　）を差し引いて求められるもので，元手，純資産ともよばれる。（　③　）は（　⑥　）の右側に記載する。

企業の活動に費やされた支出などのことがらを示す内容を（　⑤　）といい，その活動によって得られる収入などのことがらを示す内容を（　④　）という。（　④　）は（　⑦　）の右側に，（　⑤　）は左側に記載し，両者の差額として当期純損益を算定する。

〈語群〉

貸借対照表　損益計算書　資産　負債　資本　収益　費用

解答欄

解答〈4〉ページ

①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	

日常の手続き

問題 3-1 ★★★

理解度チェック □□□

次の(1)～(8)について，簿記上の取引となるものには○で，簿記上の取引とならないものには×で答えなさい。

(1) 店舗の建物を１年間（１か月の家賃50,000円）借りる契約をした。
(2) 店頭に並べていた販売用の商品10,000円が盗まれた。
(3) 商品75,000円を，電話で注文した。
(4) 商品60,000円を購入し，代金は現金で支払った。
(5) 金庫で現金10,000円を保管していたはずが，9,500円しかないことに気がついた。
(6) 従業員を１か月の給料200,000円の契約で雇い入れた。
(7) 給料日に１か月分の給料200,000円を現金で支払った。
(8) 銀行より現金50,000円を借り入れた。１か月後に返済する予定である。

解答欄

解答〈5〉ページ

(1)	(2)	(3)	(4)
(5)	(6)	(7)	(8)

問題 3-2 ★★★

理解度チェック □□□

次の各勘定（要素）について，増加（発生）ならば「＋」，減少（消滅）ならば「－」の記号を，カッコ内に記入しなさい。

解答欄

解答〈5〉ページ

資産	
（　　）	（　　）

負債	
（　　）	（　　）

資本	
（　　）	（　　）

費用	
（　　）	（　　）

収益	
（　　）	（　　）

問題 3-3 ★★★

理解度チェック □□□

次の①～⑫の文章を意味する語句を，語群Ａ～Ｓの中から選びなさい。

① 一定時点のすべての勘定科目とその金額（合計・残高等）を一覧表にしたもの
② 仕訳などの左側を指す用語
③ 簿記の５要素を勘定科目別に記録する場所
④ 取引を借方の要素と貸方の要素に分解し勘定記入への指示を出すこと
⑤ 仕訳を記録しておく帳簿
⑥ 仕訳などの右側を指す用語
⑦ 仕訳を勘定口座に書き移すこと
⑧ 企業の活動等により，５要素に増減変化をおこすことがら（記録することがら）
⑨ 簿記で最低限必要とされる帳簿，仕訳帳と総勘定元帳のこと
⑩ 期末に行う帳簿記録の整理や報告書作成の手続き
⑪ 仕訳帳・総勘定元帳以外に企業が任意で設ける帳簿
⑫ 貸借対照表と損益計算書などの報告書のこと

〈語群〉

Ａ．借方	Ｂ．契約	Ｃ．勘定(口座)	Ｄ．仕訳	Ｅ．総勘定元帳
Ｆ．損益計算書	Ｇ．転記	Ｈ．試算表	Ｉ．貸方	Ｊ．財務諸表
Ｋ．簿記上の取引	Ｌ．利害関係者	Ｍ．商品売買業	Ｎ．補助簿	Ｏ．仕訳帳
Ｐ．主要簿	Ｑ．企業	Ｒ．決算	Ｓ．貸借対照表	

解答欄　　解答〈5〉ページ

①	②	③	④	⑤	⑥
⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫

問題 3-4　★★★

理解度チェック □□□

次の一連の取引について仕訳し，総勘定元帳の各勘定に転記しなさい。ただし，転記は「日付と金額のみ」とし，相手勘定科目は省略する。

〈指定勘定科目〉

現金　借入金　資本金　売上　仕入

4月1日　株式会社設立にあたり，株式を100,000円で発行し，株主より現金を受け取った。
9月10日　現金100,000円を銀行より借り入れた。
1月17日　商品を60,000円で仕入れ，現金を支払った。
3月23日　商品を90,000円で売り上げ，現金を受け取った。

解答欄　　解答〈5〉ページ

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4/1				
9/10				
1/17				
3/23				

現金

借入金

資本金

仕入

売上

問題 3-5　★★★

理解度チェック □□□

次の一連の取引について仕訳し，総勘定元帳の各勘定口座に転記しなさい。なお，４月１日の仕訳と勘定転記は済んでいる。転記にあたっては日付，相手科目，金額を記入すること。

〈指定勘定科目〉

現金　借入金　売上　仕入

４月１日　会社設立にあたり，株式を50,000円で発行し，株主より現金を受け取った。
６月１日　銀行より現金100,000円を借り入れた。
８月１日　商品70,000円を仕入れ，代金は現金で支払った。
10月１日　商品を150,000円で売り上げ，代金は現金で受け取った。
12月１日　借入金のうち80,000円を現金で返済した。

解答欄

解答〈5〉ページ

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4/1	現金	50,000	資本金	50,000
6/1				
8/1				
10/1				
12/1				

現金

4/1 資本金 50,000	

借入金

資本金

	4/1 現金 50,000

仕入

売上

問題 3-6 ★★★

理解度チェック □□□

次の総勘定元帳の各勘定の記入にもとづいて，残高試算表を作成しなさい。なお，本日は期末（3月31日）である。

現　金

4/1	資本金	50,000	8/1	仕　入	70,000
6/1	借入金	100,000	12/1	借入金	80,000
10/1	売　上	150,000			

借　入　金

12/1	現　金	80,000	6/1	現　金	100,000

資　本　金

			4/1	現　金	50,000

仕　入

8/1	現　金	70,000			

売　上

			10/1	現　金	150,000

解答欄

解答〈6〉ページ

残高試算表
×2年3月31日

借　方	勘定科目	貸　方
	現　金	
	借入金	
	資本金	
	売　上	
	仕　入	

問題 3-7 ★☆☆

理解度チェック □□□

次の残高試算表は，決算整理後の金額である。これにもとづいて，貸借対照表と損益計算書を作成しなさい。なお，仕入勘定は売上原価（売上と引き換えに渡した商品の原価：費用）を表している。会計期間は１年である。

残高試算表

×2年３月31日

借方	勘定科目	貸方
150,000	現金	
	借入金	20,000
	資本金	50,000
	売上	150,000
70,000	仕入	
220,000		220,000

解答欄

解答〈6〉ページ

貸借対照表

×2年３月31日

資産	金額	負債及び純資産	金額
現金		借入金	
		資本金	
		繰越利益剰余金	

損益計算書

×1年４月１日～×2年３月31日

費用	金額	収益	金額
売上原価		売上高	
当期純利益			

問題 3-8 ★☆☆

理解度チェック □□□

次の解答欄の表の（　　）内に適当な金額を記入しなさい。なお，当期純損失は金額の前に△印を付しなさい。

解答欄

解答〈6〉ページ

	期首			期末			収益	費用	純損益
	資産	負債	資本	資産	負債	資本			
1	25,000	(　　)	(　　)	30,000	(　　)	25,000	9,000	(　　)	1,000
2	60,000	(　　)	45,000	55,000	12,000	(　　)	(　　)	22,000	(　　)
3	(　　)	26,000	17,000	(　　)	20,000	(　　)	(　　)	14,000	2,000

商品売買Ⅰ

問題 4-1 ★★★

理解度チェック □□□

次の一連の取引について仕訳し，解答欄の各勘定に転記しなさい。商品売買の記帳は三分法によること。転記にあたっては日付，相手科目，金額を記入すること。なお，現金勘定の４月30日までの取引残高については転記済みである。

〈指定勘定科目〉

現金　売掛金　買掛金　売上　仕入

５月２日　商品30,000円を仕入れ，代金は現金で支払った。
６日　商品を41,000円で販売し，代金は現金で受け取った。
12日　商品50,000円を仕入れ，代金は掛けとした。
16日　商品を60,000円で販売し，代金は掛けとした。
25日　買掛金のうち30,000円を現金で支払った。
30日　売掛金のうち40,000円を現金で回収した。

解答欄

解答〈8〉ページ

日　付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
5/2				
6				
12				
16				
25				
30				

現　金

70,000	

買掛金

売掛金

仕　入

売　上

問題 4-2　★★★

理解度チェック □□□

次の一連の取引について仕訳し，解答欄の各勘定に転記しなさい。商品売買の記帳は三分法によること。また，転記にあたっては日付，相手科目等，金額を記入すること。なお，５月31日までの取引の残高については各勘定に記帳済みである。

〈指定勘定科目等〉

現金　売掛金　買掛金　売上　仕入　諸口

６月２日　仕入先千葉㈱より商品100,000円を仕入れ，代金のうち30,000円は現金で支払い，残額は掛けとした。

８日　得意先神奈川㈱へ商品を160,000円で販売し，代金のうち半額は現金で受け取り，残額は掛けとした。

25日　千葉㈱に対する買掛金のうち50,000円を現金で支払った。

30日　神奈川㈱に対する売掛金のうち60,000円を現金で回収した。

解答欄

解答〈8〉ページ

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
6/2				
8				
25				
30				

現金

50,000	

買掛金

	40,000

売掛金

70,000	

売上

仕入

問題 4-3 ★☆☆

理解度チェック □□□

次の一連の取引について各設問ごとに仕訳を示しなさい。なお，商品売買の記帳は三分法によること。

3月2日　仕入先福岡㈱より商品25,000円を購入し，代金のうち10,000円は現金で支払い，残額は掛けとした。

19日　仕入先福岡㈱に対する買掛金のうち10,000円を現金で支払った。

25日　得意先広島㈱に商品70,000円を販売し，代金のうち20,000円は現金で受け取り，残額は掛けとした。

30日　得意先広島㈱に対する売掛金のうち35,000円を現金で回収した。

〔設問1〕売掛金勘定および買掛金勘定を用いて仕訳する場合

〈指定勘定科目〉　現金・売掛金・買掛金・売上・仕入

〔設問2〕人名勘定を用いて仕訳する場合

〈指定勘定科目〉　現金・広島㈱・福岡㈱・売上・仕入

解答欄

解答〈9〉ページ

〔設問1〕売掛金勘定および買掛金勘定を用いて仕訳する場合

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
3/2				
19				
25				
30				

〔設問2〕人名勘定を用いて仕訳する場合

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
3/2				
19				
25				
30				

問題 4-4　★★★

理解度チェック □□□

次の取引について仕訳し，解答欄の各勘定に転記しなさい。なお，商品売買の記帳は三分法によること。また，転記にあたっては日付，相手科目等，金額を記入すること。

〈指定勘定科目等〉

現金　売掛金　前払金　買掛金　前受金　売上　仕入　諸口

5月3日　商品800,000円を注文し，手付金として100,000円を現金で支払った。

15日　商品800,000円を仕入れ，代金のうち100,000円は注文時に支払った手付金と相殺し，残額は月末に支払うことにした。

20日　商品600,000円の注文を受け，手付金として60,000円を現金で受け取った。

26日　かねて注文を受けていた商品600,000円を本日発送し，受け取っていた手付金60,000円を差し引き，残額は月末に受け取ることにした。

解答欄

解答〈9〉ページ

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
5/3				
15				
20				
26				

前払金	

前受金	

仕入	

売上	

問題 4-5 ★★★

理解度チェック □□□

次の一連の取引について仕訳しなさい。商品売買の記帳は三分法によること。

〈指定勘定科目〉

現金　受取商品券　売上

5月15日　商品45,000円を売り渡し，代金として他社が発行した商品券50,000円を受け取り，おつり5,000円を現金で支払った。

31日　上記5月15日に受け取った商品券の精算につき，取引銀行を通じて換金請求を行い，現金で受け取った。

解答欄

解答〈9〉ページ

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
5/15				
31				

問題 4-6 ★★★

理解度チェック □□□

次の各取引について仕訳しなさい。商品売買の記帳は三分法によること。

〈指定勘定科目〉

現金　受取商品券　売上

(1) 商品80,000円を売り上げ，代金のうち50,000円は共通商品券で受け取り，残額は現金で受け取った。

(2) かつて商品を販売した際に受け取っていた商品券20,000円について換金請求を行い，現金を受け取った。

解答欄

解答〈9〉ページ

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				

商品売買Ⅱ

問題 5-1 ★★★

理解度チェック □□□

次の一連の取引を仕訳し，解答欄の各勘定に転記しなさい。商品売買の記帳は三分法によること。なお，転記にあたっては日付，相手科目，金額を記入すること。

〈指定勘定科目〉

売掛金　買掛金　売上　仕入

4月2日　商品400,000円を仕入れ，代金は掛けとした。
8日　商品を700,000円で売り上げ，代金は掛けとした。
10日　4月2日に掛けで仕入れた商品のうち30,000円を傷があったので返品した。
15日　4月8日に売り上げた商品のうち，15,000円が品違いのため返品された。

解答欄

解答〈10〉ページ

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4/2				
8				
10				
15				

売掛金

買掛金

仕入

売上

問題 5-2 ★★★

理解度チェック □□□

次の各取引について仕訳しなさい。なお，商品売買の記帳は三分法によること。

〈指定勘定科目〉

現金　売掛金　買掛金　売上　仕入　発送費

(1) 仕入先岩手商店㈱から商品10個（@50,000円）を仕入れ，代金のうち200,000円については現金で支払い，残額は掛けとした。なお，引取運賃10,000円を現金で支払った。

(2) 得意先新潟商店㈱へ送料込み604,500円で販売し，掛けおよび売上とした。また，同時に配送業者へ商品を引き渡し，発送費用4,500円を現金で支払った。

解答欄

解答〈10〉ページ

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				

問題 5-3 ★☆☆

理解度チェック □□□

次に示す４月の取引を売掛金元帳（静岡商店㈱勘定）に記入し，４月30日付で締め切りなさい。

〈摘要欄の語句〉

返品　売上　回収

４月１日　売掛金の前月繰越高　450,000円（内訳：静岡商店㈱300,000円，三重商店㈱150,000円）。

12日　静岡商店㈱に対して販売していた商品の中に不良品があり，25,000円が返品された。なお，代金は同社に対する売掛金から差し引いた。

24日　静岡商店㈱に商品90,000円，三重商店㈱に商品75,000円をそれぞれ売り渡し，代金は掛けとした。

30日　静岡商店㈱に対する売掛金100,000円，三重商店㈱に対する売掛金80,000円を，それぞれ現金で回収した。

解答欄

解答〈10〉ページ

売掛金元帳

静岡商店㈱

×1年		摘要	借方	貸方	借／貸	残高
4	1	前月繰越	(　　)		(　　)	(　　)
	(　)	(　　)		(　　)	(　　)	(　　)
	(　)	(　　)	(　　)		(　　)	(　　)
	(　)	(　　)		(　　)	(　　)	(　　)
	(　)	次月繰越		(　　)		
			(　　)	(　　)		
5	1	前月繰越	(　　)		(　　)	(　　)

問題 5-4 ★☆☆

理解度チェック □□□

次に示す５月の取引を買掛金元帳（長崎商店㈱勘定）に記入し，５月31日付で締め切りなさい。

〈摘要欄の語句〉

仕入　返品　支払

５月１日　買掛金の前月繰越高は750,000円である（内訳：長崎商店㈱450,000円，熊本商店㈱300,000円）。

11日　熊本商店㈱および長崎商店㈱から商品をそれぞれ200,000円ずつ仕入れ，代金は掛けとした。

18日　長崎商店㈱から11日に仕入れた商品のうち50,000円は不良品であったので返品した。なお，代金は同社に対する買掛金から差し引いた。

28日　熊本商店㈱に対する買掛金のうち300,000円，長崎商店㈱に対する買掛金のうち400,000円をそれぞれ現金で支払った。

解答欄

解答〈11〉ページ

買掛金元帳

長崎商店㈱

×1年		摘要	借方	貸方	借／貸	残高
5	1	前月繰越		(　　)	(　　)	(　　)
	(　)	(　　)		(　　)	(　　)	(　　)
	(　)	(　　)	(　　)		(　　)	(　　)
	(　)	(　　)	(　　)		(　　)	(　　)
	31	次月繰越	(　　)			
			(　　)	(　　)		
6	1	前月繰越		(　　)	(　　)	(　　)

問題 5-5　★★★

理解度チェック □□□

次に示す６月中の取引について，⑴売掛金，⑵買掛金に関する，総勘定元帳（売掛金勘定・買掛金勘定）と補助元帳（売掛金元帳・買掛金元帳）の記入を示しなさい。ただし，各勘定への記入は日付と金額だけでよい。なお，６月20日までの取引については各勘定に合計額で示してある。

６月21日　京都商店㈱から400円，石川商店㈱から500円の商品を掛けで仕入れた。
22日　京都商店㈱の買掛金300円，石川商店㈱の買掛金200円について，現金で支払った。
23日　高知商店㈱へ400円，横浜商店㈱へ500円の商品を掛けで販売した。
25日　高知商店㈱の売掛金200円，横浜商店㈱の売掛金300円について，現金で受け取った。
27日　石川商店㈱に対し，買掛金のうち150円を現金で支払った。
30日　高知商店㈱へ300円，横浜商店㈱へ200円の商品を掛けで販売した。

解答欄

解答〈11〉ページ

⑴　売掛金

総勘定元帳

売掛金

1,200	

売掛金元帳

高知商店㈱

400	

横浜商店㈱

800	

⑵　買掛金

総勘定元帳

買掛金

	350

買掛金元帳

京都商店㈱

	200

石川商店㈱

	150

問題 5-6 ★★★

理解度チェック □□□

次に示す６月の取引のうち，「ハンカチ（婦人用）」について，先入先出法により商品有高帳の記入を行いなさい。なお，商品有高帳の締め切りを行う必要はない。

６月１日	前月繰越：	ハンカチ（婦人用）	120枚	@150円		18,000円
		ハンカチ（紳士用）	180枚	@700円		126,000円
６日	仕　　入：	ハンカチ（婦人用）	230枚	@150円		34,500円
12日	売　　上：	ハンカチ（婦人用）	150枚	@200円	（売価）	30,000円
18日	仕　　入：	ハンカチ（婦人用）	100枚	@165円		16,500円
		ハンカチ（紳士用）	170枚	@630円		107,100円
24日	売　　上：	ハンカチ（婦人用）	220枚	@200円	（売価）	44,000円
		ハンカチ（紳士用）	290枚	@800円	（売価）	232,000円
30日	仕　　入：	ハンカチ（婦人用）	40枚	@170円		6,800円
		ハンカチ（紳士用）	120枚	@660円		79,200円

解答欄

解答〈12〉ページ

商品有高帳

（先入先出法）　　ハンカチ（婦人用）

×1年		摘要	受入高			払出高			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
( )	( )	( )	( )	( )	( )				( )	( )	( )
	( )	( )	( )	( )	( )				( )	( )	( )
	( )	( )				( )	( )	( )	( )	( )	( )
	( )	( )	( )	( )	( )				( )	( )	( )
									( )	( )	( )
	( )	( )				( )	( )	( )			
						( )	( )	( )	( )	( )	( )
	( )	( )	( )	( )	( )				( )	( )	( )
									( )	( )	( )

問題 5-7　★★★

理解度チェック □□□

次に示す６月の取引のうち，「ハンカチ（婦人用）」について，移動平均法により商品有高帳の記入を行いなさい。なお，商品有高帳の締め切りを行う必要はない。

６月１日	前月繰越：	ハンカチ（婦人用）	120枚	@150円		18,000円
		ハンカチ（紳士用）	180枚	@700円		126,000円
６日	仕　　入：	ハンカチ（婦人用）	230枚	@150円		34,500円
12日	売　　上：	ハンカチ（婦人用）	150枚	@200円	（売価）	30,000円
18日	仕　　入：	ハンカチ（婦人用）	100枚	@165円		16,500円
		ハンカチ（紳士用）	170枚	@630円		107,100円
24日	売　　上：	ハンカチ（婦人用）	220枚	@200円	（売価）	44,000円
		ハンカチ（紳士用）	290枚	@800円	（売価）	232,000円
30日	仕　　入：	ハンカチ（婦人用）	40枚	@170円		6,800円
		ハンカチ（紳士用）	120枚	@660円		79,200円

解答欄

解答〈12〉ページ

商品有高帳

（移動平均法）　　ハンカチ（婦人用）

×1年		摘要	受入高			払出高			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
(　)	(　)	(　　)	(　)	(　)	(　　)				(　)	(　)	(　　)
	(　)	(　　)	(　)	(　)	(　　)				(　)	(　)	(　　)
	(　)	(　　)				(　)	(　)	(　　)	(　)	(　)	(　　)
	(　)	(　　)	(　)	(　)	(　　)				(　)	(　)	(　　)
	(　)	(　　)				(　)	(　)	(　　)	(　)	(　)	(　　)
	(　)	(　　)	(　)	(　)	(　　)				(　)	(　)	(　　)

問題 5-8 ★☆☆

理解度チェック □□□

次に示す１月中の商品売買取引の資料にもとづいて，先入先出法によって解答欄の商品有高帳に記入し（締切不要），１月中の売上高，売上原価および売上総利益を計算しなさい。なお，売上戻りは受入欄に記入することとする。

１．仕入取引

×1年１月７日　横浜商店㈱：ネクタイ 15本　@6,000円　90,000円

21日　茨城商店㈱：ネクタイ 40本　@6,500円　260,000円

２．売上取引

×1年１月14日　山口商店㈱：ネクタイ 20本　@8,600円　172,000円

28日　山形商店㈱：ネクタイ 20本　@8,800円　176,000円

３．売上戻り

×1年１月30日　28日に8,800円で売り上げたネクタイのうち３本が汚損していたため，返品を受けた（１月21日仕入れ分が返品されたものとする）。

解答欄

解答〈13〉ページ

商品有高帳

（先入先出法）　ネクタイ

×1年		摘要	受入高			払出高			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
1	1	前月繰越	15	6,000	90,000				15	6,000	90,000
	(　)	(　　)	(　)	(　)	(　　)				(　)	(　)	(　　)
	(　)	(　　)				(　)	(　)	(　　)	(　)	(　)	(　　)
	(　)	(　　)	(　)	(　)	(　　)				(　)	(　)	(　　)
									(　)	(　)	(　　)
	(　)	(　　)				(　)	(　)	(　　)			
						(　)	(　)	(　　)	(　)	(　)	(　　)
	(　)	(　　)	(　)	(　)	(　　)				(　)	(　)	(　　)

売上高　　円

売上原価　　円

売上総利益　　円

解答編

合格トレーニング

日商簿記 3 級

CONTENTS

解答編

Theme 01　簿記の意義 …… 〈3〉
Theme 02　財務諸表と簿記の５要素 …… 〈4〉
Theme 03　日常の手続き …… 〈5〉
Theme 04　商品売買Ⅰ …… 〈8〉
Theme 05　商品売買Ⅱ …… 〈10〉
Theme 06　現金・預金 …… 〈14〉
Theme 07　小口現金 …… 〈16〉
Theme 08　クレジット売掛金 …… 〈17〉
Theme 09　手形取引 …… 〈18〉
Theme 10　電子記録債権・債務 …… 〈19〉
Theme 11　その他の取引Ⅰ …… 〈20〉
Theme 12　その他の取引Ⅱ …… 〈21〉
Theme 13　その他の取引Ⅲ …… 〈23〉
Theme 14　さまざまな帳簿の関係 …… 〈25〉
Theme 15　試算表 …… 〈27〉
Theme 16　決　算 …… 〈29〉
Theme 17　決算整理Ⅰ　現金過不足 …… 〈31〉
Theme 18　決算整理Ⅱ　売上原価 …… 〈34〉
Theme 19　決算整理Ⅲ　貸倒れ …… 〈36〉
Theme 20　決算整理Ⅳ　減価償却 …… 〈38〉
Theme 21　決算整理Ⅴ　貯蔵品 …… 〈43〉
Theme 22　決算整理Ⅵ　当座借越 …… 〈44〉
Theme 23　決算整理Ⅶ　経過勘定項目 …… 〈45〉
Theme 24　決算整理後残高試算表 …… 〈52〉
Theme 25　精算表 …… 〈57〉
Theme 26　帳簿の締め切り（英米式決算） …… 〈64〉
Theme 27　損益計算書と貸借対照表 …… 〈68〉
Theme 28　株式の発行 …… 〈73〉
Theme 29　剰余金の配当と処分 …… 〈74〉
Theme 30　税　金 …… 〈76〉
Theme 31　証ひょう …… 〈82〉
Theme 32　伝　票 …… 〈84〉

THEME 01

簿記の意義

問題 1-1

①	②	③	④
財　政	経　営	損益計算書	貸借対照表

解答への道

貸借対照表（Balance Sheet：B/S）は，企業の期末における財政状態を明らかにする報告書です。

損益計算書（Profit and Loss Statement：P/L）は，企業の一会計期間における経営成績を明らかにする報告書です。

問題 1-2

①	②	③	④
会計期間	期　首	期　末	期　中
⑤	⑥	⑦	
当　期	前　期	次　期	

解答への道

簿記では，企業の会計期間中（期首から期末までの１年間＝期中）の活動を記録します。期末に１年間の記録を整理して報告書を作成します。

THEME 02

財務諸表と簿記の5要素

問題 2-1

貸借対照表

（資　　産）	（負　　債）
	（資　　本） （純資産）

損益計算書

（費　　用）	（収　　益）

解答への道

貸借対照表の左側には「資産」，右側には「負債」および「資本」の各要素を記載します。損益計算書の左側には「費用」，右側には「収益」の各要素を記載します。なお，「資本」は，貸借対照表では「純資産」と表示します。

問題 2-2

①	②	③	④
資　産	負　債	資　本	収　益
⑤	⑥	⑦	
費　用	貸借対照表	損益計算書	

解答への道

簿記の5要素について，資産は貸借対照表の左側に，負債および資本は貸借対照表の右側に記載します。また，収益は損益計算書の右側に，費用は損益計算書の左側に記載します。

THEME 03

日常の手続き

問題 3-1

(1)	(2)	(3)	(4)
×	○	×	○
(5)	(6)	(7)	(8)
○	×	○	○

解答への道

一般の「取引」は，「相手とのやりとり」を意味しますが，「簿記上の取引」は，「資産・負債および資本に増減変化が生じること」を意味します。

問題 3-2

資産	
(＋)	(－)

負債	
(－)	(＋)

資本	
(－)	(＋)

費用	
(＋)	(－)

収益	
(－)	(＋)

解答への道

資産と費用の要素は，増加・発生を借方（減少・消滅を貸方）に記録し，負債，資本および収益の要素は，増加・発生を貸方（減少・消滅を借方）に記録します。

問題 3-3

①	②	③	④	⑤	⑥
H	A	C	D	O	I
⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
G	K	P	R	N	J

問題 3-4

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4/1	現金	100,000	資本金	100,000
9/10	現金	100,000	借入金	100,000
1/17	仕入	60,000	現金	60,000
3/23	現金	90,000	売上	90,000

現金	
4/1 100,000	1/17 60,000
9/10 100,000	
3/23 90,000	

借入金	
	9/10 100,000

資本金	
	4/1 100,000

仕入	
1/17 60,000	

売上	
	3/23 90,000

解答への道

4月1日：株式の発行
　現金（資産）の増加＝借方
　資本金（資本）の増加＝貸方
9月10日：借入れ
　現金（資産）の増加＝借方
　借入金（負債）の増加＝貸方
1月17日：仕入れ
　仕入（費用）の発生（増加）＝借方
　現金（資産）の減少＝貸方
3月23日：売上げ
　現金（資産）の増加＝借方
　売上（収益）の発生（増加）＝貸方

問題 3-5

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4/1	現金	50,000	資本金	50,000
6/1	現金	100,000	借入金	100,000
8/1	仕入	70,000	現金	70,000
10/1	現金	150,000	売上	150,000
12/1	借入金	80,000	現金	80,000

現　金					
4/1	資本金	50,000	8/1	仕　入	70,000
6/1	借入金	100,000	12/1	借入金	80,000
10/1	売　上	150,000			

仕　入		
8/1	現　金	70,000

借　入　金					
12/1	現　金	80,000	6/1	現　金	100,000

資　本　金					
			4/1	現　金	50,000

売　上					
			10/1	現　金	150,000

解答への道

勘定への転記は，仕訳の借方であれば，その勘定口座の借方に「日付，相手勘定科目，金額」を書き移し，仕訳の貸方であれば，その勘定口座の貸方に「日付，相手勘定科目，金額」を書き移します。

問題 3-6

残高試算表

×2年3月31日

借　方	勘定科目	貸　方
150,000	現　金	
	借入金	20,000
	資本金	50,000
	売　上	150,000
70,000	仕　入	
220,000		220,000

解答への道

残高試算表は，一定時点の勘定記録の一覧表です。総勘定元帳から，勘定科目をすべて書き出し，勘定口座の借方と貸方の差額（残高）を記入します。最後に各欄の合計（試算表の一番下）を計算し，借方金額と貸方金額が一致していることを確認します。

問題 3-7

貸借対照表

×2年3月31日

資　産	金　額	負債及び純資産	金　額
現　金	150,000	借入金	20,000
		資本金	50,000
		繰越利益剰余金	80,000
	150,000		150,000

損益計算書

×1年4月1日～×2年3月31日

費　用	金　額	収　益	金　額
売上原価	70,000	売上高	150,000
当期純利益	80,000		
	150,000		150,000

解答への道

貸借対照表の借方に資産（現金）を，貸方に負債（借入金）および資本（資本金）を記載し，損益計算書の借方に費用を，貸方に収益を記載します。なお，損益計算書では仕入勘定残高は売上原価，売上勘定残高は売上高と表示します。損益計算書の貸借差額を当期純利益，貸借対照表では，繰越利益剰余金と表示します。

問題 3-8

	期　首			期　末			収　益	費　用	純損益
	資　産	負　債	資　本	資　産	負　債	資　本			
1	25,000	(　1,000)	(　24,000)	30,000	(　5,000)	25,000	9,000	(　8,000)	1,000
2	60,000	(　15,000)	45,000	55,000	12,000	(　43,000)	(　20,000)	22,000	(△2,000)
3	(　43,000)	26,000	17,000	(　39,000)	20,000	(　19,000)	(　16,000)	14,000	2,000

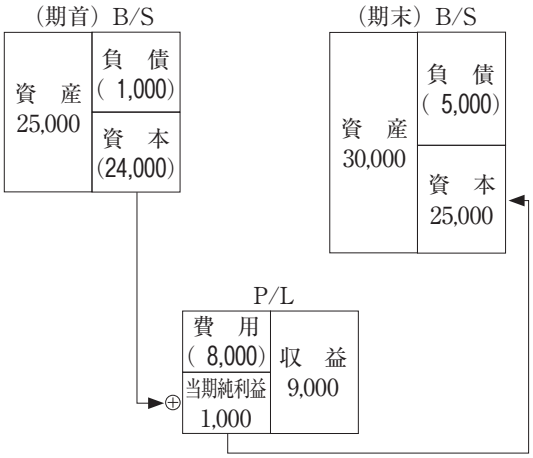
解答への道

純損益(当期純利益または当期純損失)の計算方法には次の２つがあり，両者の結果は一致します。

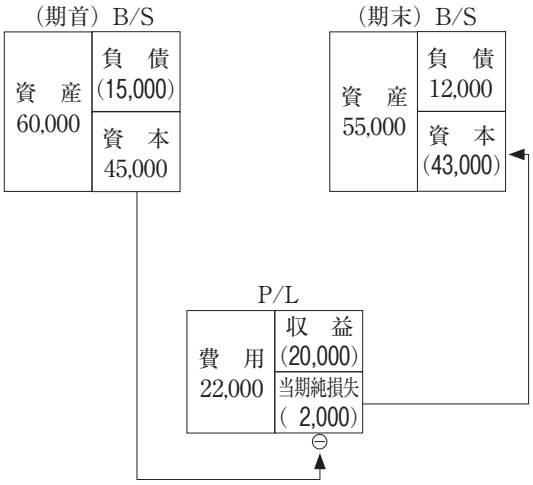
財産法：期末資本－期首資本＝当期純利益(マイナスの場合は当期純損失)

損益法：収益－費用＝当期純利益(マイナスの場合は当期純損失)

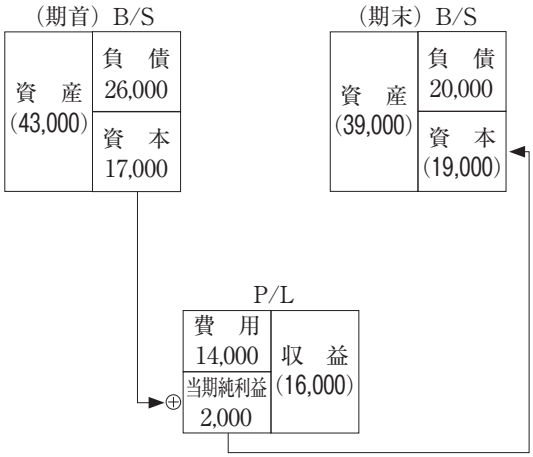
1.



2.



3.



THEME 04

商品売買Ⅰ

問題 4-1

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
5/2	仕入	30,000	現金	30,000
6	現金	41,000	売上	41,000
12	仕入	50,000	買掛金	50,000
16	売掛金	60,000	売上	60,000
25	買掛金	30,000	現金	30,000
30	現金	40,000	売掛金	40,000

現金

		70,000	5/2	仕入	30,000
5/6	売上	41,000	25	買掛金	30,000
30	売掛金	40,000			

売掛金

5/16	売上	60,000	5/30	現金	40,000

仕入

5/2	現金	30,000			
12	買掛金	50,000			

買掛金

5/25	現金	30,000	5/12	仕入	50,000

売上

			5/6	現金	41,000
			16	売掛金	60,000

解答への道

三分法では，商品を仕入れたときに仕入勘定の借方に原価を記入し，販売したときに売上勘定の貸方に売価を記入します。

問題 4-2

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
6/2	仕入	100,000	現金	30,000
			買掛金	70,000
8	現金	80,000	売上	160,000
	売掛金	80,000		
25	買掛金	50,000	現金	50,000
30	現金	60,000	売掛金	60,000

現金

		50,000	6/2	仕入	30,000
6/8	売上	80,000	25	買掛金	50,000
30	売掛金	60,000			

売掛金

		70,000	6/30	現金	60,000
6/8	売上	80,000			

仕入

6/2	諸口	100,000			

買掛金

6/25	現金	50,000			40,000
			6/2	仕入	70,000

売上

			6/8	諸口	160,000

解答への道

6/2仕入勘定借方と6/8売上勘定貸方の転記のように相手科目が2つ以上あるときは，相手科目のかわりに「諸口」と記入します。

問題 4-3

〔設問1〕売掛金勘定および買掛金勘定を用いて仕訳する場合

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
3/2	仕入	25,000	現金	10,000
			買掛金	15,000
19	買掛金	10,000	現金	10,000
25	現金	20,000	売上	70,000
	売掛金	50,000		
30	現金	35,000	売掛金	35,000

〔設問2〕人名勘定を用いて仕訳する場合

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
3/2	仕入	25,000	現金	10,000
			福岡㈱	15,000
19	福岡㈱	10,000	現金	10,000
25	現金	20,000	売上	70,000
	広島㈱	50,000		
30	現金	35,000	広島㈱	35,000

解答への道

掛け取引について，人名勘定を使用するときは売掛金勘定，買掛金勘定に代えて，相手先の会社名を勘定科目とします。

問題 4-4

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
5/3	前払金	100,000	現金	100,000
15	仕入	800,000	前払金	100,000
			買掛金	700,000
20	現金	60,000	前受金	60,000
26	前受金	60,000	売上	600,000
	売掛金	540,000		

前払金

5/3	現金	100,000	5/15	仕入	100,000

仕入

5/15	諸口	800,000			

前受金

5/26	売上	60,000	5/20	現金	60,000

売上

			5/26	諸口	600,000

解答への道

商品売買において，商品代金の全部または一部を商品の受け渡し前に受け払いした場合の処理は，次の点に注意してください。

(1) 手付金を支払ったときは，後日商品を受け取る権利が生じるため「前払金」勘定（資産）で処理します。

(2) 後日，商品を受け取ったときは，商品を受け取る権利を表す前払金を減少させ，残額を買掛金で処理します。

(3) 手付金を受け取ったときは，後日商品を引き渡す義務が生じるため「前受金」勘定（負債）で処理します。

(4) 後日，商品を引き渡したときは，商品を引き渡す義務を表す前受金を減少させ，残額を売掛金で処理します。

問題 4-5

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
5/15	受取商品券	50,000	売上	45,000
			現金	5,000
31	現金	50,000	受取商品券	50,000

解答への道

受け取った商品券は，あとで代金を受け取る権利として，受取商品券勘定（資産）で処理します。

問題 4-6

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	受取商品券	50,000	売上	80,000
	現金	30,000		
(2)	現金	20,000	受取商品券	20,000

THEME 05

商品売買Ⅱ

問題 5-1

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4/2	仕入	400,000	買掛金	400,000
8	売掛金	700,000	売上	700,000
10	買掛金	30,000	仕入	30,000
15	売上	15,000	売掛金	15,000

売掛金

4/8	売上	700,000	4/15	売上	15,000

仕入

4/2	買掛金	400,000	4/10	買掛金	30,000

買掛金

4/10	仕入	30,000	4/2	仕入	400,000

売上

4/15	売掛金	15,000	4/8	売掛金	700,000

問題 5-2

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	仕入	510,000	買掛金	300,000
			現金	210,000
(2)	売掛金	604,500	売上	604,500
	発送費	4,500	現金	4,500

解答への道

(1) 引取運賃などの仕入諸掛りは商品代金の一部として，仕入原価に加算します。三分法では仕入勘定（費用）に含めます。

(2) 発送運賃などの売上諸掛りは，発送費勘定（費用）で処理します。なお，他の科目を用いる場合もあります。また，商品の配送費用4,500円は，指示に従って売上に含めます。

問題 5-3

売掛金元帳

静岡商店㈱

×1年		摘要	借方	貸方	借/貸	残高
4	1	前月繰越	(300,000)		(借)	(300,000)
	(12)	(返品)		(25,000)	(〃)	(275,000)
	(24)	(売上)	(90,000)		(〃)	(365,000)
	(30)	(回収)		(100,000)	(〃)	(265,000)
	(〃)	次月繰越		(265,000)		
			(390,000)	(390,000)		
5	1	前月繰越	(265,000)		(借)	(265,000)

解答への道

本問は，静岡商店㈱の記入が求められているので，三重商店㈱に関する取引を記入しないように注意しましょう。なお，日付が同じときは，数字に代えて「〃」とします。

以下，本問での取引について仕訳を示します。

4/1 前月繰越 静岡商店㈱ 300,000円，
三重商店㈱ 150,000円

12 (売上) 25,000 (売掛金・静岡) 25,000
24 (売掛金・静岡) 90,000 (売上) 165,000
(売掛金・三重) 75,000
30 (現金) 180,000 (売掛金・静岡) 100,000
(売掛金・三重) 80,000

売掛金勘定と売掛金元帳（相手先別の口座）の関係を示すと以下のとおりです。

売掛金

4/1	繰越	450,000	4/12		25,000
24		165,000	30		180,000

⬇

売掛金元帳

静岡商店㈱

4/1	繰越	300,000	4/12		25,000
24		90,000	30		100,000

三重商店㈱

4/1	繰越	150,000	4/30		80,000
24		75,000			

問題 5-4

買掛金元帳
長崎商店㈱

×1年		摘要	借方	貸方	借/貸	残高
5	1	前月繰越		(450,000)	(貸)	(450,000)
	(11)	(仕入)		(200,000)	(〃)	(650,000)
	(18)	(返品)	(50,000)		(〃)	(600,000)
	(28)	(支払)	(400,000)		(〃)	(200,000)
	31	次月繰越	(200,000)			
			(650,000)	(650,000)		
6	1	前月繰越		(200,000)	(貸)	(200,000)

解答への道

本問は，長崎商店㈱の記入が求められているので，熊本商店㈱に関する取引を記入しないように注意しましょう。

以下，本問での取引について仕訳を示します。

5/1　前月繰越　長崎商店㈱ 450,000円，
　　熊本商店㈱ 300,000円

11　(仕入) 400,000　(買掛金・熊本) 200,000
　　(買掛金・長崎) 200,000

18　(買掛金・長崎) 50,000　(仕入) 50,000

28　(買掛金・熊本) 300,000　(現金) 700,000
　　(買掛金・長崎) 400,000

買掛金勘定と買掛金元帳（相手先別の口座）の関係を示すと以下のとおりです。

買掛金

5/18	50,000	5/1 繰越	750,000
28	700,000	11	400,000

⬇

買掛金元帳
長崎商店㈱

5/18	50,000	5/1 繰越	450,000
28	400,000	11	200,000

熊本商店㈱

5/28	300,000	5/1 繰越	300,000
		11	200,000

問題 5-5

(1) 売掛金

総勘定元帳
売掛金

	1,200	6/25	500
6/23	900		
30	500		

売掛金元帳

高知商店㈱

	400	6/25	200
6/23	400		
30	300		

横浜商店㈱

	800	6/25	300
6/23	500		
30	200		

(2) 買掛金

総勘定元帳
買掛金

6/22	500		350
27	150	6/21	900

買掛金元帳

京都商店㈱

6/22	300		200
		6/21	400

石川商店㈱

6/22	200		150
27	150	6/21	500

掛け取引を相手先別に仕訳すると以下のとおりです。

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
6/21	仕入	900	買掛金・京都	400
			買掛金・石川	500
22	買掛金・京都	300	現金	500
	買掛金・石川	200		
23	売掛金・高知	400	売上	900
	売掛金・横浜	500		
25	現金	500	売掛金・高知	200
			売掛金・横浜	300
27	買掛金・石川	150	現金	150
30	売掛金・高知	300	売上	500
	売掛金・横浜	200		

問題 5-6

商　品　有　高　帳
ハンカチ（婦人用）

（先入先出法）

×1年		摘　要	受入高			払出高			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
(6)	(1)	(①前月繰越)	(120)	(150)	(18,000)				(120)	(150)	(18,000)
	(6)	(仕　入)	(230)	(150)	(34,500)				(350)	(②150)	(52,500)
	(12)	(売　上)				(150)	(150)	(22,500)	(200)	(150)	(30,000)
	(18)	(仕　入)	(100)	(165)	(16,500)				(200)	(③150)	(30,000)
									(100)	(③165)	(16,500)
	(24)	(売　上)				(200)	(④150)	(30,000)			
						(20)	(④165)	(3,300)	(80)	(165)	(13,200)
	(30)	(仕　入)	(40)	(170)	(6,800)				(80)	(165)	(13,200)
									(40)	(170)	(6,800)

解答への道

〈商品有高帳の記入〉

商品有高帳に売価を記入することはありません。売上時には払出高欄へ，原価（いくらで仕入れた商品を払い出したのか）を記入します。

（先入先出法）

① 前月繰越は，受入高欄と残高欄に記入します。

② 仕入単価が同じ場合は，まとめて記入します。

③ 仕入単価が異なるときは，残高欄に区別して記入します。

④ 6月18日の残高のうち，先に仕入れた単価150円の商品を払い出し，不足分は後に仕入れた単価165円の商品を払い出したとして記入します。

問題 5-7

商　品　有　高　帳
ハンカチ（婦人用）

（移動平均法）

×1年		摘　要	受入高			払出高			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
(6)	(1)	(前月繰越)	(120)	(150)	(18,000)				(120)	(150)	(18,000)
	(6)	(仕　入)	(230)	(150)	(34,500)				(350)	(150)	(52,500)
	(12)	(売　上)				(150)	(①150)	(22,500)	(200)	(150)	(30,000)
	(18)	(仕　入)	(100)	(165)	(16,500)				(300)	(②155)	(46,500)
	(24)	(売　上)				(220)	(③155)	(34,100)	(80)	(155)	(12,400)
	(30)	(仕　入)	(40)	(170)	(6,800)				(120)	(④160)	(19,200)

解答への道

〈商品有高帳の記入〉

（移動平均法）

① 6月6日の残高欄の単価を用います。

② 平均単価を計算します。

$$\frac{30{,}000円+16{,}500円}{200枚+100枚}=155円/枚$$

③ 6月18日の残高欄の単価を用います。

④ 平均単価を計算します。

$$\frac{12{,}400円+6{,}800円}{80枚+40枚}=160円/枚$$

問題 5-8

商品有高帳
ネクタイ

(先入先出法)

×1年		摘要	受入高			払出高			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
1	1	前月繰越	15	6,000	90,000				15	6,000	90,000
	(7)	(仕入)	(15)	(6,000)	(90,000)				(30)	(6,000)	(180,000)
	(14)	(売上)				(20)	(6,000)	(120,000)	(10)	(6,000)	(60,000)
	(21)	(仕入)	(40)	(6,500)	(260,000)				(10)	(6,000)	(60,000)
									(40)	(6,500)	(260,000)
	(28)	(売上)				(10)	(6,000)	(60,000)			
						(10)	(6,500)	(65,000)	(30)	(6,500)	(195,000)
	(30)	(売上戻り)	(3)	(6,500)	(19,500)				(33)	(6,500)	(214,500)

売上高	321,600円
売上原価	225,500円
売上総利益	96,100円

解答への道

仕入および売上の取引内容から，日付順に商品有高帳に記入します。

〈商品有高帳の記入〉

1月28日の払出高欄は1月21日の残高のうち，先に仕入れた単価6,000円の商品を払い出し，不足分は後に仕入れた単価6,500円の商品を払い出したとして記入します。

1月30日の売上戻りは，1月21日仕入分が戻されることにより，在庫が増加するため，受入欄に記入します。

〈売上高・売上原価・売上総利益の計算〉

① 売上高は次のように求めます。
172,000円(1/14) + 176,000円(1/28)
− 26,400円(1/30)* = 321,600円
* 売上戻り：8,800円(売価) × 3本 = 26,400円

② 商品有高帳の払出高欄の合計額から売上戻り（原価）を控除した金額が売上原価（販売した商品の原価）です。
120,000円(1/14) + 60,000円(1/28)
+ 65,000円(1/28) − 19,500円(1/30)
= 225,500円

③ 売上高から売上原価を控除することにより売上総利益を求めます。
321,600円 − 225,500円 = 96,100円